

和歌山大学 一般入試 学生募集要項

Wakayama University



電車でのアクセス

| | | | | | |
|--------|------|-----------------|--------|-------------------------|-------|
| 新大阪 | なんば | 南海本線特急で約50分 | 和歌山大学前 | バスで約4分、自転車で約10分、徒歩で約20分 | 和歌山大学 |
| 大阪 | 天王寺 | 南海本線特急・急行で約60分 | 南海和歌山市 | 和歌山バスで約20分 | |
| | | JR和歌線快速で約70分 | JR和歌山 | 和歌山バスで約30分 | |
| | | JR和歌線紀州路快速で約90分 | 和歌山大学前 | バスで約4分、自転車で約10分、徒歩で約20分 | |
| | | JR特急くしおで約60分 | 南海和歌山市 | 和歌山バスで約20分 | |
| JR紀伊田辺 | JR御坊 | JR特急くしおで約45分 | JR和歌山 | 和歌山バスで約30分 | |
| | | JR特急くしおで約70分 | | | |

空港からのアクセス

| | | | | | |
|--------|-----|--|--------|-------------------------|-------|
| 関西国際空港 | | 南海関西空港線で泉佐野乗換約35分～60分 (連絡の都合で変わります) | 和歌山大学前 | バスで約4分、自転車で約10分、徒歩で約20分 | 和歌山大学 |
| | | 南海関西空港線で泉佐野乗換約40分 | 南海和歌山市 | 和歌山バスで約20分 | |
| | | リムジンバスで約45分 | JR和歌山 | 和歌山バスで約30分 | |
| 伊丹空港 | なんば | 南海本線特急で約50分 | 和歌山大学前 | バスで約4分、自転車で約10分、徒歩で約20分 | |
| | | リムジンバスで約30分 | 南海和歌山市 | 和歌山バスで約20分 | |
| | 天王寺 | 南海本線特急・急行で約60分 | JR和歌山 | 和歌山バスで約30分 | |



和歌山大学入試日程

| | |
|---------------------|-----------------------|
| 平成26年 | |
| 11月4日(火)～11月7日(金) | 経済学部推薦入試・スポーツ推薦入試出願受付 |
| 11月4日(火)～11月11日(火) | 観光学部推薦入試出願受付 |
| 11月29日(土) | 経済学部推薦入試・スポーツ推薦入試実施 |
| 12月6日(土)または12月7日(日) | 観光学部推薦入試実施 |
| 12月12日(金) | 経済学部推薦入試・スポーツ推薦入試合格発表 |
| 12月19日(金) | 観光学部推薦入試合格発表 |
| 平成27年 | |
| 1月6日(火)～1月8日(木) | 教育学部・システム工学部推薦入試出願受付 |
| 1月17日(土)～1月18日(日) | 大学入試センター試験の本試験実施 |
| 1月26日(月)～2月4日(水) | 一般入試出願受付 |
| 1月30日(金)または1月31日(土) | システム工学部推薦入試実施 |
| 1月31日(土) | 教育学部推薦入試実施 |
| 2月8日(日) | 教育学部、システム工学部推薦入試合格発表 |
| 2月17日(火) | 推薦入試・スポーツ推薦入試入学手続受付 |
| 2月25日(水) | 一般入試前期日程試験実施 |
| 3月6日(金) | 一般入試前期日程合格発表 |
| 3月12日(木) | 一般入試後期日程試験実施 |
| 3月14日(土)～3月15日(日) | 一般入試前期日程入学手続受付 |
| 3月21日(土) | 一般入試後期日程合格発表 |
| 3月26日(木)～3月27日(金) | 一般入試後期日程入学手続受付 |
| 3月28日(土)～3月31日(火) | 追加合格者の発表(注)欠員が生じた場合 |

表紙デザイン：和歌山大学教授 北村元成

目 次

和歌山大学入試日程

| | |
|--|----|
| アドミッション・ポリシー（入学者受入方針） | 1 |
| I 入学定員および募集人員 | 6 |
| II 出願資格 | 7 |
| III 入学試験の実施方法 | 8 |
| IV 出願要件 | 8 |
| V 他の国公立大学・学部および本学学部間の併願 | 8 |
| VI 個別の入学資格審査の申請方法等 | 9 |
| VII 出願手続 | 10 |
| 1. 出願に必要な書類等 | 10 |
| 2. 出願期間 | 11 |
| 3. 提出先 | 11 |
| 4. 出願に関する全般的な注意事項 | 12 |
| 5. 『教育学部』を志望する場合の出願に関する注意事項 | 12 |
| 6. 受験票の送付について | 12 |
| VIII 入試方法等（前期日程・後期日程） | 13 |
| [1] 教育学部 | 13 |
| 1. 入試方法等 | 13 |
| 2. 入学試験実施教科・科目等 | 14 |
| 3. 平成27年度大学入学者選抜（大学入試センター試験）における 旧教育課程履修者に対する経過措置 | 16 |
| 4. 実技検査要項 | 17 |
| [2] 経済学部 | 18 |
| 1. 入試方法等 | 18 |
| 2. 入学試験実施教科・科目等 | 19 |
| 3. 平成27年度大学入学者選抜（大学入試センター試験）における 旧教育課程履修者に対する経過措置 | 20 |
| [3] システム工学部 | 21 |
| 1. 入試方法等 | 21 |
| 2. 入学試験実施教科・科目等 | 22 |
| 3. 平成27年度大学入学者選抜（大学入試センター試験）における 旧教育課程履修者に対する経過措置 | 23 |
| 4. 総合問題の出題内容 | 24 |
| [4] 観光学部 | 25 |
| 1. 入試方法等 | 25 |
| 2. 入学試験実施教科・科目等 | 26 |
| 3. 平成27年度大学入学者選抜（大学入試センター試験）における 旧教育課程履修者に対する経過措置 | 27 |
| [5] 平成27年度和歌山大学入学者選抜個別学力検査における 旧教育課程履修者に対する経過措置 | 28 |
| [6] 個別学力検査等の試験場および試験日時等 | 29 |
| 1. 試験場 | 29 |
| 2. 前期日程 | 29 |
| 3. 後期日程 | 29 |
| 4. 試験場案内 | 29 |
| IX 障害を有する入学志願者の事前相談について | 30 |
| 1. 相談期日 | 30 |
| 2. 相談手続 | 30 |
| 3. 問い合わせ先 | 30 |

| | | |
|------|--|----|
| X | 合格の発表等について | 31 |
| | 1. 合格の発表 | 31 |
| | 2. 欠員補充の方法（追加合格） | 31 |
| | 3. 欠員補充の第2次募集 | 31 |
| XI | 入学手続 | 32 |
| | 1. 入学手続期間・場所 | 32 |
| | 2. 入学手続に必要なもの | 32 |
| | 3. 入学にあたっての留意事項 | 32 |
| XII | 入試情報の開示 | 33 |
| XIII | 個人情報の取り扱いについて | 33 |
| XIV | 学生募集要項の請求方法 | 33 |
| | 1. 学生募集要項の種類 | 33 |
| | 2. 学生募集要項の請求方法 | 34 |
| | (1) 全国学校案内資料管理事務センターの「大学案内・募集要項受付システム」 | 34 |
| | (2) 「モバっちょ」で請求する方法 | 34 |
| | (3) 郵送による請求方法 | 35 |
| | (4) 本学へ直接来学し、受け取る方法 | 35 |
| | (5) その他 | 35 |
| | 3. 学生募集要項に関する問い合わせ先 | 35 |
| XV | 宿泊の案内 | 35 |
| XVI | 入学案内 | 36 |
| | [1] 学部の紹介 | 36 |
| | ◎ 教育学部 | 36 |
| | ◎ 経済学部 | 38 |
| | ◎ システム工学部 | 39 |
| | ◎ 観光学部 | 41 |
| | [2] 学生生活 | 42 |
| | (1) 入学時の諸経費 | 42 |
| | (2) 入学料免除の制度 | 42 |
| | (3) 入学料徴収猶予の制度 | 42 |
| | (4) 授業料免除の制度 | 42 |
| | (5) 奨学金制度 | 42 |
| | (6) 学生傷害保険等 | 43 |
| | (7) 学生寮 | 43 |
| | (8) 下宿・アパート | 43 |
| | (9) 学生生活に関する問い合わせ先 | 43 |
| | [3] 過去3年間の入学者選抜状況 | 44 |

受験上の注意

| | |
|------------|---|
| 出願書類等 | 前期日程用 |
| 入学願書等の記入方法 | 前期日程 |
| 出願書類等 | 後期日程用 |
| 入学願書等の記入方法 | 後期日程 |

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1. 大学の教育目的

和歌山大学は、未来を自らの力で切り拓く社会人として、豊かな人間性ととともに公共性を有し、環境にやさしい高度な専門的知識・技術を修得し、地域にあっても国際化を推進できる資質を持ち、そして、社会のニーズに的確に対応できる人材の育成を目的としています。

2. 大学のアドミッション・ポリシー

- (1) 学問への探究心にあふれ、課題解決のため意欲的に取り組むことのできる人
- (2) 明確な目的意識をもつ人
- (3) 新しいことに積極的に挑戦する意欲をもつ人

教育学部

<学部の教育目的>

本学部は、教育と関わる職業人の養成を目的としています。

学校教育教員養成課程では、人間と教育、科学や芸術に関する専門的知識と教育実践力を備えた教育に関わる人材を養成し、総合教育課程では文化と環境についての幅広い知識を備え、それを生かして社会の様々な教育関連の仕事に携わる、豊かな教養のある人材を養成します。

学校教育教員養成課程

1. 課程の教育目的

新しい時代に求められる科学、芸術、文化についての専門的知識と深い人間理解にもとづいた、豊かな人間性をそなえた教員の養成を目的とします。また、地域の社会的、自然的な特性に配慮した、地域の発展にも貢献できる教員養成をめざしています。さらに、今日の複雑な教育問題に対応するために、子ども理解の理論や方法をはじめとした、総合的、専門的知識と共に実践的な資質をそなえた教員、および発達相談、教育相談などのできる教育支援職員を養成します。

教育科学コースでは、教育科学の基礎を学び、子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得し、教育に関するさまざまな科学・研究分野を学びます。さらに、学校教育の基本的課題のみならず今日の複雑で深刻な教育問題に対応できる総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

教科教育コースでは、教科教育の基礎を学び、子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、学校における各教科に関する幅広く深い知識と専門的技量を修得します。さらに、文化の継承・発展という教育の基本的課題に対応できる総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

児童教育コースでは小学校を中心課題とし、教育科学と教科教育の両分野の協力・共同によって、総合的・全体的視野を持った小学校教員の養成をめざします。そのために、小学校におけるさまざまな問題を取りあげ、解決への取り組みを検討しながら、実践的な学びの力を向上させていきます。また、幼稚園教育についても学ぶことができます。

2. アドミッション・ポリシー

教育科学コース

- (1) 教員になりたいという熱意を持ち、豊かな感性・スキル・思考力を身につけたい人
- (2) 子どもの様々な特性を理解し、心や行動の問題を支援できる教員をめざす人
- (3) 教育を通じて、子ども・社会・自分自身のこれまでとこれからについて探求したい人
- (4) 福祉や生涯学習等の視野から人間の発達・障害・学び・人格形成について学びたい人

教科教育コース

- (1) 特定の教科に強い興味を持ち、中学・高校の教員をめざそうとする人
- (2) 教育について幅広く学びながら、特定の教科にも強い小学校教員をめざそうとする人
- (3) 教科とそこから発展していく学びを通して豊かな人間性を養い、教員以外にも広く社会で活躍しようとする人

児童教育コース

- (1) 小学校教員になりたいという強い気持ちを持った人
- (2) 特定の分野を深く学ぶよりは、総合的に広く小学校について学びたい人
- (3) 幼児教育とつないで小学校教育を考えたい人

総合教育課程

1. 課程の教育目的

総合教育課程は教員免許の取得を目的としない課程です。この課程の特徴は、教育を学校という場から考えるのではなく、文化と環境という場から考える点にあります。教育の目的の最たるものは、人間と、その社会の存立のために、文化を受け継ぎ、これを再創造することにあります。それを可能にするためには、環境についての深い配慮が求められます。環境に対する慎重な心遣いを欠いてしまえば、たちどころに文化は危機に瀕し、教育の機能も完全にストップしてしまうでしょう。裏を返せば、そのような教育の働きを支え、人間と環境との適切なパートナーシップを維持するものが、そもそも文化の役割に他なりません。この課程では、従来の大学における専門教育の枠を越えて、二つのプログラム（「文化研究」「環境教育」）にそって、文科系と芸術系と理科系の幅広い分野を履修します。このような学習を通じて、特定の分野や領域に偏らない、豊かな教養と人間性を兼ね備えた人材の育成をめざします。

2. アドミッション・ポリシー

- (1) 国際化社会における多様で異質な文化を理解し、表現したい人
- (2) 身近な生活（衣、食、住）や、地域の文化に関心のある人
- (3) 人間の社会や文化と、自然環境との関係（共生）を考えたい人
- (4) 言語表現能力（読む、書く、話す）に磨（みが）きを掛けたい人
- (5) 豊かな教養を身に付け、現代社会の一員として貢献したい人

経済学部

1. 教育目的

本学部は経済学科・ビジネスマネジメント学科・市場環境学科の3学科から構成され、経済学・経営学・情報科学・法律学・人文科学などさまざまな専攻分野の教員が所属しています。

こうした条件を活かし、教育目的としては、

- (1) 視野を広く持ち、経済社会を体系的に理解できる人材の育成
- (2) 専門領域に応じた基礎学力を確実に修得した人材の育成

を掲げます。具体的には

- (3) 金融業・サービス業・製造業などの各種産業や、公務・会計・税務・法務・商業教育・調査研究等の分野において、経済社会のさまざまな問題を真摯に受け止め、経済社会のニーズを的確に判断し、創造的・実践的に対応することを通じて、国際社会・地域社会で活躍できる人材の育成

を目指しています。

2. アドミッション・ポリシー

上記のような教育目的に基づき、次のような人を求めています。

- (1) 経済学・経営学・法学等を学ぶ上で必要となる幅広い基礎学力を有する人。
- (2) 社会・経済における諸問題に関心を持ち、卒業後、専門知識を活かして関連分野で能力を發揮したい人。
- (3) 主体的に学修し、新しいことに積極的に挑戦する意欲を有する人。
- (4) コミュニケーション能力を持ち、協調性があり活発に議論ができ、リーダーシップを有する人。

また、特にスポーツ推薦入試では次のような人を求めます。

- (5) スポーツマネジメントに関心を持ち、関連する経営学・経済学などの専門領域の学修に積極的に取り組める人。
- (6) スポーツの実践・普及・振興に関心を有する人。

3. 入学者選抜の基本方針

本学部では、一般入試（前期日程・後期日程）のほか、推薦入試・スポーツ推薦入試・社会人特別入試・帰国子女特別入試・私費外国人留学生特別入試および第3年次編入試など、複数の入学者選抜方式を採用することで、多様な人材の受け入れを目指しています。

- (1) 一般入試（前期日程）では、大学入試センター試験で5～6教科の基礎的・総合的学力をみるとともに、個別学力検査では英語と数学を実施します。
- (2) 一般入試（後期日程）では、大学入試センター試験で外国語を含む2～3科目の基礎的な学力をみるとともに、個別学力検査（小論文）の配点を大きくとることで、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）に秀でた人を求めます。
- (3) 推薦入試では、高等学校において優秀な学業成績を収め、かつ、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）を有するとともに、高いコミュニケーション能力を有する人を求めます。

- (4) スポーツ推薦入試では、高等学校において優秀なスポーツ成績と良好な学業成績を収め、かつ、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）を有するとともに、高いコミュニケーション能力を有する人を求めます。
- (5) 以上のほか、社会人特別入試・帰国子女特別入試・私費外国人留学生特別入試および第3年次編入試を行い、多様な人材の受け入れを目指します。

システム工学部

1. 学部の教育目的

工学ではなく「システム工学」という学部名称には、教育対象の複合性・総合性が意識されています。したがって本学部の教育目的としてまず第一に、

- (1) 視野を広く持ち、技術を体系的に理解できる能力を養う

ことをあげなければなりません。

しかし、初めて高等教育を受ける受験生に対して、総合力だけに重点をおくこともできません。よって、

- (2) 専門領域に応じた基礎学力・基礎技術を確実に修得させる

こともまた必要です。すなわち、本学部では専門性にある程度の幅をもたせて科学技術の教育を行うことを目的とします。各学科の構成もこの目的に即しています。

「システム」にはまた応用性を重視するという意味合いも含まれています。本学部では実学教育を旨とし、

- (3) 産業・社会のニーズに即応できる実践力を養うこと

も目的として掲げています。

これには、知識と技術を実際の製造物に応用できる能力とともに、システムを開発・運用するプロセスに必要なコミュニケーション能力を養うことも含まれます。

2. アドミッション・ポリシー

前節で設定した教育目的を実現するため、本学部の受験生に対し、下記のようなアドミッション・ポリシーを掲げています。高等学校等で履修すべき具体的な教科・科目等については、入学者選抜実施教科・科目を参考にしてください。

- (1) 工学系大学教育にたえるため、理数系の基礎知識と問題解決能力を求める。
- (2) システム工学特有の複合領域の大学教育に適合するよう、論理的思考力と状況判断力、さらに高い倫理感を求める。
- (3) 今日の技術者・研究者に必要な英語力とコミュニケーション力の素養を求める。

観光学部

1. 教育目的

いま、日本では「観光立国」の実現が大きな課題となっています。美しい自然環境の整備、活力ある都市と農山村の再生、味わいのある伝統文化の継承・復活や新しい地域文化の創造、そして、これらの情報を発信する能力の強化に取り組んでいくことが求められています。同時に、観光インフラの整備、国際競争力を備えた観光産業の育成が要請されています。観光を通じた経済の活性化によって、誇りと愛着の持てる地域を再生・創造することも期待されています。さらに心身両面における健康の増進や、国・地域の歴史・文化の理解などを通じた豊かな国民生活の創造のために観光を活用することの有効性も指摘されるようになってきました。これらの諸課題に取り組み、観光の振興に寄与する人材が何よりも急務となっています。

そこで本学部は、今日の観光を支えるにふさわしい幅広い教養、日本文化に対する理解と知識、ITスキル、そして高度な外国語運用能力をバランスよく備えた人材の育成を目的とします。特に「観光経営学科」では観光産業や関連集客交流産業のリーダーとして、「地域再生学科」では活力と魅力にあふれた地域を再生・創造するプランナーとして活躍するために必要な専門的知識を習得していきます。そして、インターンシップやフィールドワーク実習などの体験的学習の機会を通じて、それぞれの分野の第一線で実践的に判断し活躍できる人材の養成を目指します。

2. アドミッション・ポリシー

- (1) 学問への探求心にあふれ、課題解決のために論理的に思考できる人
- (2) 明確な目的意識を持ち、新しいことに積極的に挑戦できる人
- (3) 高いコミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮できる人
- (4) 観光に関連する組織体の経営問題に関心がある人
- (5) 観光を通じた地域再生の問題に関心がある人
- (6) 国際的な交流や、国内外の様々な地域の文化に関心がある人
- (7) インターンシップやフィールドワーク調査などの学外実習に意欲的に取り組むことのできる人
- (8) 大学で修得した知識を活用して社会で活躍したい人

I 入学定員および募集人員

| 学部 | 学科・課程 | 入学定員 | 募 集 人 員 | | | | | | | |
|---------------------------------|--------------|------|------------------------------|------------------------------|---------|-----------------|-----------------|---------------|--------|-------------------------|
| | | | 一 般 入 試 | | 特 別 選 抜 | | | | | |
| | | | 前 期 日 程 | 後 期 日 程 | 推 薦 入 試 | ス ポ ー ツ 推 薦 入 試 | 帰 国 子 女 特 別 入 試 | 社 会 人 特 別 入 試 | AO 入 試 | 私 費 外 国 人 留 学 生 特 別 入 試 |
| 教育 学部 | 学校教育教員養成課程 | 145 | 96 <small>(備考1参照)</small> | 34 <small>(備考1参照)</small> | 15 | — | — | — | — | 若干名 |
| | 総合教育課程 | 20 | 15 <small>(備考2参照)</small> | — <small>(備考2参照)</small> | 5 | — | — | — | — | |
| | 小 計 | 165 | 111 | 34 | 20 | — | — | — | — | — |
| 経済 学部 | 経済学科 | 110 | 200 | 80 | 40 | 4 | 3 | 3 | — | 若干名 |
| | ビジネスマネジメント学科 | 110 | | | | | | | | |
| | 市場環境学科 | 110 | | | | | | | | |
| | 小 計 | 330 | 200 | 80 | 40 | 4 | 3 | 3 | — | — |
| シ ス テ ム 工 学 部 | システム工学科 | 305 | 170 | 100 | 35 | — | — | — | — | 若干名 |
| | 小 計 | 305 | 170 | 100 | 35 | — | — | — | — | — |
| 観 光 学 部 | 観光経営学科 | 60 | 50 | 35 | 20 | — | — | 2 | 3 | 若干名 |
| | 地域再生学科 | 50 | | | | | | | | |
| | 小 計 | 110 | 50 | 35 | 20 | — | — | 2 | 3 | — |
| 合 計 | | 910 | 531 | 249 | 115 | 4 | 3 | 5 | 3 | — |

[備考]

- 1 教育学部の学校教育教員養成課程の一般入試は、次のとおり募集します。

| 課 程 | 系・専攻（分野および教科） | 募 集 人 員 | | |
|------------|---------------------------------|---------|---------|---|
| | | 前 期 日 程 | 後 期 日 程 | |
| 学校教育教員養成課程 | 文 科 系 | 44 | 24 | |
| | 理 科 系 | 34 | 10 | |
| | 実技系 <small>(教科教育コース)</small> | 音楽または美術 | 10 | / |
| | | 保 健 体 育 | 8 | |
| 計 | | 96 | 34 | |

(注) ①文科系または理科系を受験し、合格した人は、入学後に各コース（教育科学コース，教科教育コース，児童教育コース）への所属を決定します。

②教科教育コースの実技系を受験し、合格した人は、入学後、専攻の変更を認めません。

2 教育学部の総合教育課程の一般入試は、次のとおり募集します。

| 課 程 | 系 | 募集人員 |
|--------|-----|------|
| | | 前期日程 |
| 総合教育課程 | 文科系 | 9 |
| | 理科系 | 6 |
| 計 | | 15 |

(注)①入学後に各プログラム（文化研究プログラム，環境教育プログラム）への所属を決定します。
②後期日程の募集はございません。

3 教育学部の一般入試の募集区分と入学後のコース・専攻は下表のとおり，学校教育教員養成課程の実技系を除き，入学後にコース・専攻を決定します。

| 募集区分 | | | 入学後のコース・専攻 | |
|----------------|------------------|---------------------|------------|-------------------------------------|
| 学校教育教員 養成課程 | 文科系 | | 教育科学コース | 教育学，心理学，特別支援教育学，教育実践学 |
| | | | 教科教育コース | 国語，社会，音楽，美術，保健体育，技術，家庭，英語 |
| | | | 児童教育コース | 児童教育 |
| | 理科系 | | 教育科学コース | 教育学，心理学，特別支援教育学，教育実践学 |
| | | | 教科教育コース | 数学，理科，社会(地理，哲学に限る)，音楽，美術，保健体育，技術，家庭 |
| | | | 児童教育コース | 児童教育 |
| | 実技系 (教科教育コース) | 音楽または美術 | 教科教育コース | 音楽 |
| | | 保健体育 | | 美術 |
| | | | | 保健体育 |
| 総合教育課程 | 文科系 | 文化研究プログラム，環境教育プログラム | | |
| | 理科系 | | | |

4 経済学部経済学科，ビジネスマネジメント学科，市場環境学科は，入学後に各学科への所属を決定します。

5 観光学部の観光経営学科，地域再生学科は，入学後に各学科への所属を決定します。

6 特別入試の推薦入試，スポーツ推薦入試，帰国子女特別入試，社会人特別入試，AO入試の合格者(入学手続者)が，その募集人員に満たない場合には，その差の募集人員を前期日程の募集人員に含めて募集します。

7 私費外国人留学生特別入試は，入学定員外として募集します。

II 出願資格

入学を志願できる者は，次のいずれかに該当する者としてします。

- 1 高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)を卒業した者及び平成27年3月卒業見込みの者。
- 2 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成27年3月修了見込みの者。
- 3 大学入学に関し，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として，次のいずれかに該当する者。
 - (1) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び平成27年3月までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
 - (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成27年3月までに修了見込みの者。
 - (3) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が別に定める日以降に

修了した者及び平成 27 年 3 月までに修了見込みの者。

- (4) 文部科学大臣の指定した者（昭和 23 年文部省告示第 47 号）
- (5) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者及び平成 27 年 3 月 31 日までに合格見込みであることが証明される者。（同規則附則第 2 条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含みます。）
- (6) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成 27 年 4 月 1 日までに 18 歳に達する者。

上記出願資格 3 の(6)により出願する者は、個別に入学資格の認定を受ける必要がありますので、9 ページの「VI 個別の入学資格審査の申請方法等」を参照のうえ、申請してください。

III 入学試験の実施方法

一般入試は、学科・課程・系の入学定員を分割し、「前期日程」および「後期日程」による「分離分割方式」で個別学力検査等を実施し、合格者を決定します。

IV 出願要件

一般入試に出願する者は、平成 27 年度大学入試センター試験で本学が指定した教科・科目を受験しなければなりません。本学が指定する平成 27 年度大学入試センター試験の教科・科目を 1 つでも受験していない者は、出願することはできません。なお、本学では過年度の大学入試センター試験の成績は利用しません。

○大学入試センター試験の受験を要する教科・科目の確認

出願にあたっては、13 ページ～27 ページの「入学試験実施教科・科目等」の表により、各学部が指定する大学入試センター試験の教科・科目を受験していることを志願者自身が確認をしてください。

なお、「入学願書等の記入方法」の裏面の「大学入試センター試験受験教科・科目確認表」による確認も必ず行ってください。

V 他の国公立大学・学部および本学学部間の併願

志願者は、個別学力検査等について、「前期日程」から 1 つ、「後期日程」から 1 つの合計 2 つの大学に出願することができます。したがって、「前期日程－後期日程」の併願はできますが、「前期日程－前期日程」、「後期日程－後期日程」の併願はできませんので注意してください。

本学の学部間においても、「前期日程」から 1 つ、「後期日程」から 1 つの合計 2 つの学部または学部の学科・課程等に併願することができます。その場合は、それぞれに出願書類を提出し、入学検定料を納めてください。

また、他の国公立大学・学部（独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除きます。以下同じ。）および本学の推薦入試・AO入試に合格した者は、本学に出願済の「前期日程試験」または「後期日程試験」を受験しても、入学許可は得られません。

ただし、推薦入試・AO入試を実施する他大学・学部および本学の定める手続きにより入学辞退を許可された場合は、この限りではありません。

さらに、前期日程試験に合格し、平成 27 年 3 月 15 日までに入学手続を行った者は、後期日程試験を受験してもその合格者とはなりません。

VI 個別の入学資格審査の申請方法等

1 入学資格審査の対象者

次のいずれにも該当する者

- (1) 学校教育法に規定する通常の課程の修了者(修了見込み者を含みます。)に該当しない者で、入学する年度の学年の初めにおいて18歳以上である者。
- (2) 申請者の学習歴、実務経験および取得している資格等を総合的に判断し、次のいずれかに該当し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。
 - ①個人の学習歴等が高等学校を卒業した者と同等以上の学力を有する者と本学が認める者。
 - ②取得している資格等に係る資格試験において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力を有することを確認する学力試験を課し、かつ専門的知識等を審査のうえ与えられる職業資格を取得している者で、本学が相当と認める者。

2 審査方法

本学ウェブサイト参照してください。

和歌山大学 ウェブサイト URL : <http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/faculty/competence/>

3 申請手続

(1) 受付期間

平成27年1月19日(月)～平成27年1月21日(水)〔必着〕

申請書類に不足等がある場合は、申請を受付出来ませんので、不明なことは早い時期にご相談ください。

(2) 審査の時期

申請のあった都度、随時。

(3) 申請書類

- ①「入学資格認定申請書」(本学所定の様式)
- ②「履歴書」(本学所定の様式)
- ③出身学校が発行する成績証明書等
- ④出身学校の教育課程の内容を証明する書類
- ⑤審査対象として希望する職歴、資格等に関する証明書等
- ⑥その他、本学が提出を求めた書類

詳細は、本学ウェブサイト参照してください。

(4) 申請書の提出方法および提出先

申請者は、申請書類を申請期限までに持参するか郵送(期限内必着)してください。郵送する場合は、封筒表面に「大学入学資格認定申請書在中」と朱書し、必ず書留郵便で郵送してください。

提出先：和歌山大学入試課

4 審査結果の通知

審査の結果は、申請者に対し郵送により通知します。入学資格が認定された者には「入学資格認定書」を交付します。

5 本件に関する問合せ先

〒640-8510 和歌山市栄谷 930

和歌山大学入試課

TEL073-457-7116(直通)

VII 出願手続

1. 出願に必要な書類等

本冊子に綴り込みの本学所定の出願書類等（*印）に調査書等を添えて、前期日程用と後期日程用を混同しないように、よく確認し提出してください。

なお、入学願書等の記入方法については、折り込みの「入学願書等の記入方法」を参照してください。

| 出願書類等の種類 | 出願書類作成および提出上の主な注意事項 |
|----------------------------------|--|
| * 入学願書 | <u>前期日程</u> 用と <u>後期日程</u> 用の2種類があります。混同しないように作成してください。 |
| * 電算処理票 | 入学願書、受験票、写真票と共に1枚の用紙となっています。ミシン目から切り離さないで、必要事項を記入し、「大学入試センター試験成績請求票貼付欄」に該当する試験日程用の大学入試センター発行の『平成27センター試験成績請求票』を貼ってください。 |
| * 受験票・写真票 | 入学願書と電算処理票と共に1枚の用紙となっています。ミシン目から切り離さないで、必要事項を記入してください。写真は、出願前3か月以内に撮影した同一のもの（縦4cm×横3cm、脱帽・無背景・胸より上を撮影した顔写真）を、「受験票」および「写真票」の写真貼付欄に、剥がれないように貼ってください。 |
| 調 査 書 等 | <p>① 高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)を卒業した者または平成27年3月までに卒業見込みの者は、出身学校長が文部科学省所定の様式により作成し、厳封したものを提出してください。</p> <p>※ なお、指導要録の保存期間を経過した者、または廃校・被災その他の事情により調査書が得られない場合は、次のとおり取扱います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校を卒業後5年を経過した者 指導要録(指導に関する記録)の保存期間を経過していることから、その記録の記載のない調査書で差し支えありません。 ・ 高等学校を卒業後20年を経過した者 指導要録の保存期間を経過していることから調査書に代え、卒業証明書及び成績通知書等を提出してください。 ・ 廃校・被災その他の事情により調査書が得られない場合 卒業証明書及び成績通知書等を提出してください。 <p>② 高等専門学校第3学年修了者および文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者については、出身学校において文部科学省所定の調査書に準じて作成した書類をもって調査書に代えることができます。</p> <p>③ 高等学校卒業程度認定試験合格者(大学入学資格検定合格者を含みます。)は、合格成績証明書をもって調査書に代えることができます。ただし、高等学校等において科目を修得したことにより受験科目を一部免除された場合は、その免除された科目の高等学校等の調査書または成績証明書を添えてください。</p> <p>④ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者、国際バカロレア資格取得者、アビトゥア資格取得者、バカロレア資格(フランス共和国)取得者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科を修了した者は、成績証明書をもって調査書に代えることができます。</p> |
| * 実技検査 選択種目提出票 (教育学部出願者のみ) | 教育学部の学校教育教員養成課程実技系「音楽または美術」出願者のうち、「音楽」選択者、または同課程実技系「保健体育」出願者は、該当の実技検査選択種目提出票を作成して提出してください。 |
| * スポーツ歴調書 (教育学部出願者のみ) | 教育学部の学校教育教員養成課程実技系「保健体育」出願者は、出身学校長等が作成したスポーツ歴調書を作成して提出してください。 |

| | |
|-----------------------------|--|
| <p>入学検定料 (* 振込依頼書)</p> | <p>17,000円</p> <p>〈入学検定料の納入方法〉</p> <p>納入方法は、銀行振込となります。本要項に添付の振込依頼書に必要事項を記入の上、「電信扱」が利用できる金融機関窓口（ゆうちょ銀行を除く）から振込してください。</p> <p>振込手数料は志願者負担となります。</p> <p>振込後、取扱金融機関の収納印が押印されていることを確認し、「振込金受付証明書（C票）」を入学願書の所定欄に貼付して提出してください。また、「振込金領収書（B票）」は大切に保管してください。</p> <p>注1) 通常、金融機関の窓口営業時間は、午後3時までです。また、土日・祝日は休業となります。</p> <p>注2) ATM（現金自動預払機）、携帯電話、パソコン等からは振り込まないでください。</p> <p>出願書類受理後は、入学検定料の返還はできません。但し、入学検定料を払い込んだが出願しなかった場合または誤って二重に振り込んだ場合は17,000円を、また、出願受付後に大学入試センター試験受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した場合には、入学検定料17,000円のうち13,000円を平成27年3月6日までに返還請求を行った場合に限り返還します。</p> |
| <p>* 宛名票(シール)</p> | <p>前期日程用と後期日程用の2種類ありますので、提出の際、間違えないように注意してください。</p> |
| <p>* 「受験票在中」封筒</p> | <p>前期日程用と後期日程用の2種類の封筒があります。なお、必ず、362円切手を貼ってください。(複数枚の切手を貼る場合は、重ならないように貼ってください。)</p> |
| <p>* 「入学願書在中」封筒(出願用)</p> | <p>前期日程用と後期日程用の2種類の封筒があります。提出する書類等を混同しないように、各封筒裏面の提出書類等確認表で必要な提出書類を確認してください。</p> |
| <p>一般入試出願書類 受付通知はがき</p> | <p>前期日程と後期日程の2種類があります。</p> <p>郵便番号、住所、氏名、志望学部、志望課程・系（専攻）を記入し52円切手を貼り、出願書類とともに提出してください。</p> <p>52円切手の無いものは送付しません。</p> |

2. 出願期間

平成27年1月26日（月）から2月4日（水）まで。〔期間内必着〕

平成27年2月4日（水）午後5時までに必着するように、郵便事情や書類不備の場合を考慮し、余裕をもって郵送してください。なお、平成27年2月4日（水）午後5時以後に到着したものは受理しません。

また、平成27年2月4日（水）の午前9時30分から午後5時00分までに限り、下記の提出先へ持参することができます。

3. 提出先

〒640-8510 和歌山市栄谷930番地

和歌山大学入試課

4. 出願に関する全般的な注意事項

- (1) 電算処理票に、該当する試験日程用の大学入試センター発行の「平成 27 センター試験成績請求票」を貼付していない場合は、書類不備として受理しません。また、センター試験成績請求票の再発行を受けた場合は、再発行された「平成 27 センター試験成績請求票」を貼付してください。
- (2) 前期日程試験および後期日程試験の個別学力検査等で受験する教科・科目等は出願時に選択してください。ただし、出願後の変更は認めません。
- (3) 出願後、提出書類の記載内容等の変更は、原則として認めません。
- (4) 出願書類の記載ミスや漏れ・不足等は、書類不備として取り扱い返却することがあります。提出の際は、十分に点検してください。
- (5) 提出書類に虚偽があった場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

5. 『教育学部』を志望する場合の出願に関する注意事項

- (1) 学校教育教員養成課程
 - ① 前期日程志願者は文科系、理科系、実技系「音楽または美術」、実技系「保健体育」の中から1つを選んでください。なお、実技系の募集は前期日程のみです。
 - ② 後期日程志願者は文科系、理科系の中から1つを選んでください。
- (2) 総合教育課程
前期日程志願者は、文科系、理科系の中から1つを選んでください。
- (3) 第2志望制
前期日程では学校教育教員養成課程と総合教育課程との間で、一方の「文科系」に出願した者はもう一方の「文科系」を第2志望として出願することができます。同様に、一方の「理科系」に出願した者はもう一方の「理科系」を第2志望として出願することができます。
- (4) 前期日程志願者で「地理歴史」または「理科」を受験する者は、下記の「地理歴史」選択科目群または「理科」選択科目群から1科目を出願時に選択してください。
 - 「地理歴史」選択科目群：『日本史』、『世界史』、『地理』のいずれか1科目選択。
 - 「理科」選択科目群：『物理』、『化学』、『生物』、『地学』のいずれか1科目選択。

6. 受験票の送付について

受験票は、平成 27 年 2 月 16 日（月）頃に「速達」郵便で送付します。2 月 19 日（木）までに郵送されない場合は、入試課までお問い合わせください。

「前期日程試験」または「後期日程試験」を受験する当日には、『本学受験票』と『平成 27 年度大学入試センター試験受験票』を必ず持参してください。

[1] 教 育 学 部

1. 入試方法等

入学者の選抜は、大学入試センター試験ならびに本学が実施する個別学力検査・実技検査等および調査書等の出願書類により総合して行います。

学校教育教員養成課程実技系「音楽または美術」、実技系「保健体育」を志望する者に対しては、個別学力検査は課さないで、それぞれ当該教科の実技検査を課します。

前期日程では学校教育教員養成課程と総合教育課程との間で、一方の「文科系」に出願した者はもう一方の「文科系」を第2志望として出願することができます。同様に、一方の「理科系」に出願した者はもう一方の「理科系」を第2志望として出願することができます。

なお、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を全科目受験しなければ、個別学力検査等を受験することはできません。

また、個別学力検査等において、本学が指定する教科・科目等を全科目受験しなければ、合格者選考の対象にはなりません。

大学入試センター試験受験に際しての注意事項

本学における平成 27 年度入学者選抜における大学入試センター試験の取扱いは、下記のとおりですのでご注意ください。

○英語の受験について

大学入試センター試験で英語を受験する方は、筆記試験とリスニング試験の両方を受験しなければなりません。一方でも受験しなかった場合は、本学が行う個別試験を受験する資格がなくなります（重度聴覚障害者でリスニング試験免除者を除きます）。

2. 入学試験実施教科・科目等

| 学部・学科等名及び入学定員等 〔平成26年度 志願倍率〕 | 学力検査等の 区分・ 日程 | | 入学試験センター試験の利用教科・科目名 | | | | 個別学力検査等 | | | | | | | | | | | 特別の 入試方法 等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------------|--------------------|-------------------------------|----------------------------------|-------------|--------------------|---------------------------------------|-------------|----------------|--------------------------------|-------------------|--------------------------------|-------------------|-----|------|--------|------|------------------|------|----------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|------|------|
| | 文 | 理 | 科目名 | | | | 教科等 | 科目名 | 2段階 併選 抜 | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 | | | | | | | | | | 配点 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 国 | 地歴 | 公民 | 数学 | | | | 理科 | 外国語 | 総合 問題 | 小論文 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教育学部 〔4.3〕 前期 165人 後期 111人 その他 34人 20 | 文科系 前期 68人 後期 44人 24 | 前期 2月25日 | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※ | 後期 3月12日 | 国語総合・国語表現Ⅰ } から2 | 国語総合・国語表現Ⅰ } から2 | その他 | 小論文 | センター試験 | 200 | *100 | *100 | 200 | 100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 | | | | | | | | | | | |
| | | | 地歴 | 世B, 日B, 地理Bから1 | | 世B, 日B, 地理Bから1 | 国語総合・国語表現Ⅰ } から2 | | | 200 | *200 | 200 | *200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 400 | | | | | | | |
| | | | 公民 | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から2 | | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から2 | 200 | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 1300 | | | | | | |
| | | | 数学 | 数Ⅰ・数Ⅱ } から2 | | 数Ⅰ・数Ⅱ } から2 | 200 | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 | | | | | | |
| | | | 理科 | 理Ⅰ・理Ⅱ } から2 | | 理Ⅰ・理Ⅱ } から2 | 200 | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 | | | | | | |
| | | | 外国語 | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から2 | | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から2 | 200 | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 | | | | | |
| | | | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 200 | | | | | |
| | | | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1100 | | | | | |
| | | | 理科系 前期 44人 後期 34人 10 | 理科系 前期 44人 後期 34人 10 | | 前期 2月25日 | 国 | | | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | 後期 3月12日 | 教Ⅰ・教Ⅱ・教A・教B } から1 | 教Ⅰ・教Ⅱ・教A・教B } から1 | その他 | 小論文 | センター試験 | 200 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 | | | | |
| | | | | | | | 地歴 | | | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | 教Ⅰ・教Ⅱ・教A・教B } から1 | | | 200 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 400 | | |
| | | | | | | | 公民 | | | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から1 | | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から1 | 200 | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 400 | 400 | 400 | 400 | 400 | 400 | 400 | 400 | 400 | 400 | 400 | 1300 |
| | | | | | | | 数学 | | | 数Ⅰ・数Ⅱ } から1 | | 数Ⅰ・数Ⅱ } から1 | 200 | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 |
| | | | | | | | 理科 | | | 理Ⅰ・理Ⅱ } から1 | | 理Ⅰ・理Ⅱ } から1 | 200 | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 |
| 外国語 | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から1 | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から1 | | | 200 | | *100 | *100 | 200 | *200 | | 200 | *100 | | | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 200 | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1100 | | | | | |
| 実技系 「音楽又は美術」 (教科教育コース) 前期 10人 | 実技系 「保健体育」 (教科教育コース) 前期 8人 | 前期 2月25日 | | | 国 | | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※もしくは1 | 後期 3月12日 | 実技検査 | 実技検査 | | その他 | 小論文 | | | センター試験 | 200 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 | | | | |
| | | | | | 地歴 | | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※もしくは1 | | 実技検査 | 200 | | | | | | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 400 | |
| | | | | | 公民 | | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から2 ※もしくは1 | | 実技検査 | 200 | | | | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 1300 |
| | | | | | 数学 | | 数Ⅰ・数Ⅱ } から2 ※もしくは1 | | 実技検査 | 200 | | | | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 |
| | | | | | 理科 | | 理Ⅰ・理Ⅱ } から2 ※もしくは1 | | 実技検査 | 200 | | | | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 |
| | | | 外国語 | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から2 ※もしくは1 | 実技検査 | 200 | *100 | | *100 | 200 | *200 | | | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 | | | | | |
| | | | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 200 | | | | | |
| | | | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1100 | | | | | |
| | | | 文科系 前期 9人 | 文科系 前期 9人 | 前期 2月25日 | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※ | | 後期 3月12日 | 国語総合・国語表現Ⅰ } から2 | 国語総合・国語表現Ⅰ } から2 | | | その他 | 小論文 | センター試験 | 200 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 | | | | |
| | | | | | | 地歴 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※ | | | 実技検査 | 200 | | | | | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 400 | | |
| | | | | | | 公民 | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から2 ※ | | | 実技検査 | 200 | | | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 1300 | |
| | | | | | | 数学 | 数Ⅰ・数Ⅱ } から2 ※ | | | 実技検査 | 200 | | | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 |
| | | | | | | 理科 | 理Ⅰ・理Ⅱ } から2 ※ | | | 実技検査 | 200 | | | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 |
| 外国語 | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から2 ※ | 実技検査 | | | | 200 | *100 | *100 | | 200 | *200 | 200 | *100 | | | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 200 | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1300 | | | | | |
| 理科系 前期 6人 | 理科系 前期 6人 | 前期 2月25日 | | | | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | 後期 3月12日 | | 教Ⅰ・教Ⅱ・教A・教B } から1 | 教Ⅰ・教Ⅱ・教A・教B } から1 | その他 | 小論文 | | | センター試験 | 200 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 | | | | |
| | | | | | | 地歴 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | | | 実技検査 | 200 | | | | | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 400 | | |
| | | | | | | 公民 | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から1 | | | 実技検査 | 200 | | | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 400 | |
| | | | | | | 数学 | 数Ⅰ・数Ⅱ } から1 | | | 実技検査 | 200 | | | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 |
| | | | | | | 理科 | 理Ⅰ・理Ⅱ } から1 | | | 実技検査 | 200 | | | | | *100 | *100 | 200 | *200 | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 |
| | | | 外国語 | 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング } から1 | 実技検査 | 200 | *100 | | *100 | 200 | *200 | | | 200 | *100 | *100 | *100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 900 | | | | | | |
| | | | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 200 | | | | | |
| | | | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1300 | | | | | |

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- ① 選択教科・科目のうち、必要教科・科目数を超えて受験している場合には、高得点の教科・科目を選択します。ただし、地歴および公民から1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答教科・科目を採用します。同様に、理科で基礎を付していない1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を採用します。
- ② 「工業教理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)において、これらの科目を履修した者(大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目に合格した者を含みます。)および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了(見込)者に限ります。
- ③ 「学校教育教員養成課程(美技系) (前期日程)」を受験する者は、地歴および公民から2科目を選択した場合、理科で基礎を付した2科目(又は基礎を付していない科目1科目)を選択するか、もしくは、地歴および公民から1科目を選択した場合には、理科で基礎を付していない科目2科目を選択してください。
- ④ 外国語の「英語」については、筆記試験(200点)とリスニングテスト(50点)の合計得点を200点に換算したものを得点(素点)とします。

※ 地歴又は公民で2科目を選択する場合には、同一名称のA・B出題科目、同一名称を含む出題科目同士との組み合わせはできません。

【個別学力検査等】欄

① 「国語総合・国語表現Ⅰ」については、近代以降の文章、古典(古文、漢文)から出題します。

② 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aについては全範囲を出題範囲とします。数学Bについては、「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

① 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。

② 実技系の選択にあたっては、実技試験の点数が200点に達しない者は総合点にかかわらず不合格とします。

3. 平成27年度大学入学選抜（大学入試センター試験）における旧教育課程履修者に対する経過措置
教育学部

旧教育課程履修者は、数学または理科の受験科目について、以下のA欄に対応するB欄の経過措置科目を選択することもできます。

| 学部名 | 教科・科目名等 | | 選抜 | 新・旧教育課程履修者の選択方法【A欄】 | | 旧教育課程履修者のうち希望する者の選択方法【B欄】 | | 備考 |
|--------|------------------------------|------|--------------------------------|---------------------|---|---------------------------|--|--|
| | 教科 | 科目名等 | | 教科 | 科目名等 | 教科 | 科目名等 | |
| 教育学部 | 文科系 | 前期日程 | 一般入試 | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2※ | 教 | 旧教I・旧教A | ◎大学入試センター試験の利用教科・科目について 1. 選択教科・科目のうち、必要教科・科目数を超えて受験している場合には、高得点の教科・科目を選択する。ただし、地歴および公民から1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を選択する。同様に、理科で基礎を付けない1科目を利用する場合も、得点にかかわらず、第1解答科目を選択する。 2. 「工業教育基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において、これらの科目を履修した者（大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目に合格した者を含む。）及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限る。 3. 「学校教育教員養成課程（実技系）（前期日程）」を受験する者は、地歴および公民から2科目を選択した場合には、理科で基礎を付した2科目（又は基礎を付していない科目1科目）を選択するか、もしくは、地歴および公民から1科目を選択した場合に、理科で基礎を付していない科目2科目を選択する。 4. 外国語の「英語」については、筆記試験（200点）とリスニングテスト（50点）の合計得点を200点に換算したものを得点（素点）とする。 ※地歴又は公民で2科目を選択する場合には、同一名称のA・B出題科目、同一名称を含む出題科目同士との組み合わせはできない。 ◎B欄の経過措置科目の選択についての注意 1. 旧教育課程の理科から1科目を利用する場合は、地歴および公民の場合と同様に、得点にかかわらず、第1解答科目を選択する。 2. 旧教育課程の理科の科目を選択して「学校教育教員養成課程（実技系）（前期日程）」を受験する者は、地歴および公民から2科目を選択した場合、理科1科目を選択するか、もしくは、地歴および公民から1科目を選択した場合に、理科で2科目を選択する。 3. 旧教育課程の理科で2科目を選択する場合には、「理科総合A」と「理科総合B」との組み合わせはできない。 4. 理科で2科目を選択する場合には、新・旧の異なる教育課程の科目の組み合わせはできない。 |
| | | 後期日程 | | 理 | 旧教II・旧教B 理総A, 理総B, 物I, 化I, 生I, 地I から1 | | | |
| | 理科系 | 前期日程 | | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | 教 | 旧教I・旧教A 旧教II・旧教B 理総A, 理総B, 物I, 化I, 生I, 地I から2 | |
| | | 後期日程 | | 理 | 物I, 化I, 生I, 地I から2 | 理 | 旧教I・旧教A 旧教II・旧教B 理総A, 理総B, 物I, 化I, 生I, 地I から2 | |
| | 実技系 「音楽又は美術」 (教科教育コース) | 前期日程 | | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2※もしくは1 | 教 | 旧教I・旧教A 旧教II・旧教B 理総A, 理総B, 物I, 化I, 生I, 地I から1もしくは2 | |
| | | 後期日程 | | 理 | 物I, 化I, 生I, 地I から2 | 理 | 旧教I・旧教A 旧教II・旧教B 理総A, 理総B, 物I, 化I, 生I, 地I から1もしくは2 | |
| | 実技系 「保健体育」 (教科教育コース) | 前期日程 | | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2※もしくは1 | 教 | 旧教I・旧教A 旧教II・旧教B 理総A, 理総B, 物I, 化I, 生I, 地I から1もしくは2 | |
| | | 後期日程 | | 理 | 物I, 化I, 生I, 地I から2 | 理 | 旧教I・旧教A 旧教II・旧教B 理総A, 理総B, 物I, 化I, 生I, 地I から1もしくは2 | |
| | 総合教育課程 | 前期日程 | | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2※ | 教 | 旧教I・旧教A 旧教II・旧教B 理総A, 理総B, 物I, 化I, 生I, 地I から1 | |
| | | | | 理 | 物I, 化I, 生I, 地I から1 | 理 | 旧教I・旧教A 旧教II・旧教B 理総A, 理総B, 物I, 化I, 生I, 地I から1 | |
| 総合教育課程 | 前期日程 | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | 教 | 旧教I・旧教A 旧教II・旧教B 理総A, 理総B, 物I, 化I, 生I, 地I から2 | | | |
| | | 理 | 物I, 化I, 生I, 地I から2 | 理 | 旧教I・旧教A 旧教II・旧教B 理総A, 理総B, 物I, 化I, 生I, 地I から2 | | | |

4. 実技検査要項

| 課程・系 | | 学校教育教員養成課程・実技系（教科教育コース） | | |
|------------------|-----------------------|--|--|---|
| 実施日程 | | 前期日程 | | |
| 志望 教科 | 検 査 内 容 | | 注意事項 | |
| 音 楽 | 実技Ⅰ群 | A. 声楽 | ○次の曲を原語・暗譜で演奏してください。 ○調性は任意で良いが、演奏する調性の伴奏用の楽譜のコピーを志願票とともに1部提出してください。（伴奏者は大学側が用意します。） G. カッチーニ作曲 「アマリッリ (Amarilli)」 ----- 高中声用は全音楽譜出版社刊『イタリア歌曲集1』, 低声用は教育芸術社刊『イタリア古典声楽曲集1』を使用してください。 | |
| | | B. ピアノ | ○次の曲を暗譜で演奏してください。（くり返しは省略します。） L. van ベートーヴェン作曲「ピアノソナタ No.8 Op.13 第1楽章」 | |
| | | C. 管・打楽器 | ○任意の1曲を無伴奏で演奏してください。 ○暗譜の必要はありません。（演奏時間が長い場合は、途中でカットすることがあります。） ○演奏する楽曲の楽譜のコピーを志願票とともに1部提出してください。 ○楽器及び演奏に必要なものは各自持参してください。但し、マリンバの場合、大学で用意する楽器（サイトウ MS-75〈4オクターヴ、49鍵、C28～C76〉）で演奏してください。 【受験可能楽器】 フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、マリンバ、スネア・ドラムからひとつを選択 | |
| | 実技Ⅱ群 | 1. 声楽 | ○次の曲を暗譜のうへ母音の a で演奏してください。 ○調性は任意で良いが、演奏する調性の伴奏用の楽譜のコピーを志願票とともに1部提出してください。（伴奏者は大学側が用意します。） 『コンコーネ 50番』より 12番 ----- 全音楽譜出版社刊『コンコーネ 50番』を使用してください。 | |
| | | 2. ピアノ | ○次の曲を暗譜で演奏してください。（くり返しは省略します。） L. van ベートーヴェン作曲「ピアノソナタ No.19 Op.49-1 第1楽章」 | |
| 美 術 | 共 通 〔全員が受験してください。〕 | 造形表現Ⅰ（平面） 与えられたモチーフを配置し、鉛筆を用いて素描してください。 (試験時間：120分) | 持参物 素描用黒鉛筆、練り消しゴム、プラスチック消しゴム、カッターナイフ、30cm 程度の直定規、三角定規（一組）、コンパス ※その他の道具等はすべて大学で用意します。 | |
| | | 造形表現Ⅱ（立体） 与えられた主題を、配付された素材（紙）の特性を生かして立体的に表現してください。 (試験時間：180分) | | |
| 保 健 体 育 | 共 通 〔全員が受験してください。〕 | 〔基礎運動能力テスト〕 1. 12分間走 2. 立ち幅跳び 3. ハンドボール投げ 4. マット運動 | | 出身学校長等の作成したスポーツ歴調書（所定様式）および志願者が作成した選択種目提出票（所定様式）を出願時に提出してください。 雨天の場合は基礎運動能力テストの種目に一部変更があります。 |
| | | 選 択 〔右の10種目の中から1種目を選択して受験してください。〕 | 〔種目別 実技テスト〕 1. 陸上競技(100m, 800m, 走幅跳, 走高跳, 砲丸投, 槍投, ハンマー投, 円盤投から1種目) 2. バスケットボール 3. バレーボール 4. サッカー 5. 柔道 6. バドミントン 7. 創作ダンス 8. 野球（硬式） 9. ハンドボール 10. テニス（硬式） | |

※ 保健体育を志望する者のうち、出願資格が高等学校卒業程度認定試験合格等の場合は、「スポーツ歴調書」の作成者について入試課まで問い合わせてください。

[2] 経済学部

1. 入試方法等

入学者の選抜は、大学入試センター試験ならびに本学が実施する個別学力検査および調査書等の出願書類により総合して行います。

なお、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を全科目受験しなければ、個別学力検査を受験することはできません。

また、個別学力検査において、本学が指定する教科・科目等を全科目受験しなければ、合格者選考の対象にはなりません。

大学入試センター試験受験に際しての注意事項

本学における平成 27 年度入学者選抜における大学入試センター試験の取扱いは、下記のとおりですのでご注意ください。

○英語の受験について

大学入試センター試験で英語を受験する方は、筆記試験とリスニング試験の両方を受験しなければなりません。一方でも受験しなかった場合は、本学が行う個別学力検査を受験する資格がなくなります（重度聴覚障害者でリスニング試験免除者を除きます）。

2. 入学試験実施教科・科目等

| 学部・学科等名及び入学定員等 〔平成26年度 志願倍率〕 | 学力検査等の 区分・日程 | 大学入試センター試験の利用教科・科目名 | | 個別学力検査等 2段階 併選 抜 | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 | | | | | | 特別の 入試方法 等 | | | | |
|--|-----------------|---------------------|---|---------------------------|--|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|------------------|----------------|-----------------|---|--|
| | | 教科 | 科目名等 | | 試験の区分 | 国語 | 地歴 | 公民 | 数学 | 理科 | | 外国語 | 総合 小論文 実技 | 配点 合計 | |
| 経済学部 〔5.0〕 前期 330人 後期 200 その他 80 50 | 前期 2月25日 | 国 | 世B, 地理B 倫, 政経, 倫・政経 } から2 数Ⅰ, 数Ⅱ, 数Aから1 数Ⅱ, 数Ⅲ, 工, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 (又は物, 化, 生, 地から1) 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 (6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目) | 数 外 | 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B, 簿から1 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング | センター試験 | 200 *100 | *100 *100 | 200 *100 | 200 *100 | 100 | 200 | 900 | 推薦 スポーツ 推薦 帰国子女 社会人 私費外国 人留学生 追加合格 | |
| | | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1または2 現社, 倫, 政経, 倫・政経から1 数Ⅰ, 数Ⅱ, 数Aから1 数Ⅱ, 数Ⅲ, 工, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 (又は物, 化, 生, 地から1) 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 (3教科4(3)科目又は2教科3科目) | 小論文 その他 | 小論文 (社会科学を学ぶうえで必要な理解力, 論 理的な思考力, 表現力を問う) | センター試験 | 200 *100 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | 400 | 400 | 600 | |
| | 後期 3月12日 | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1または2 現社, 倫, 政経, 倫・政経から1 数Ⅰ, 数Ⅱ, 数Aから1 数Ⅱ, 数Ⅲ, 工, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 (又は物, 化, 生, 地から1) 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 (3教科4(3)科目又は2教科3科目) | 数 外 | 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B, 簿から1 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング | 個別学力検査 | | | | | | 1200 | 1200 | | |
| | | | | | | 計 | 200 *100 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | 100 | (500) (800) | 1800 | 1800 | |
| | | | | | | 計 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | 400 | 400 | 1200 | 1800 | |

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- ①選択教科・科目のうち, 必要教科・科目数を超えている場合には, 高得点の教科・科目を選択します。ただし, 地歴および公民から1科目を利用する場合は, 得点にかかわらず, 第1解答科目を採択します。
- ②「工業数理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択解答できる者は, 高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)において, これらの科目を履修した者(大学入学資格検定試験合格者で, これらの科目に合格した者を含みます。)および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込)者に限ります。
- ③前期日程を受験する者は, 地歴・公民, 公民, 地理B, 日B, 地理B)から必ず1科目以上を選択すること。
- ④後期日程を受験する者は, 国語, 地理・公民, 数学, 理科から2科目または3科目を選択する際, 次の選択を可とする。
 - a. 地歴・公民から2科目
 - b. 【世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1または2】および【現社, 倫, 政経, 倫・政経から0または1】を組み合わせて計2科目を選択。
 - c. 理科の基礎を付している科目から2科目と, 国語, 地歴, 公民, 数学から1科目の計3科目を選択。
 - d. 理科の基礎を付していない科目から1科目と, 国語, 地歴, 公民, 数学から1科目の計2科目を選択。
- ⑤外国語の「英語」については, 筆記試験(200点)とリスニングテスト(50点)の合計得点を200点に換算したものを得点(素点)とします。
- ⑥地歴または公民で2科目を選択する場合には, 同一名称のA・B出題科目, 同一名称を含む出題科目同士との組み合わせはできません。
- ⑦後期日程において, 地歴および公民の中から第2解答科目の得点を採択する場合は, 第1解答科目の得点を採択する場合には, 第1解答科目の得点を採択する場合があります。

【個別学力検査等】欄

- ①数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Aは全範囲を出題範囲とします。数学Bについては, 「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。
- ②前期日程で「簿記」を選択解答できる者は, 高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)において, これらの科目を履修した者(大学入学資格検定試験合格者で, これらの科目に合格した者を含みます。)および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込)者に限ります。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

- ①配点に*印を付している教科は, 選択教科を表します。
- ②前期日程の個別学力検査において, 「数学」「外国語」は各300点とし, 高得点の教科の点数を2倍します。

3. 平成27年度大学入学選抜（大学入試センター試験）における旧教育課程履修者に対する経過措置

経済学部

旧教育課程履修者は、数学または理科の受験科目について、以下のA欄に対応するB欄の経過措置科目を選択することもできます。

| 学部名 | 教科・科目名等 | 選抜 | | 大学入試センター試験の受験科目・科目名 | | 備考 |
|------|---------------|---------------------|---|---------------------|------|---|
| | | 新・旧教育課程履修者の選択方法【A欄】 | 旧教育課程履修者のうち希望する者の選択方法【B欄】 | 教科 | 科目名等 | |
| 経済学部 | 前期日程 | 国 地歴 公民 教 | 国 世B, 日B, 地理B 理社, 倫, 政経, 倫・政経 数Ⅰ, 数Ⅱ・数Ⅲ, 工・簿, 情報から1 数Ⅱ, 数Ⅲ・数Ⅳから1 物基, 化基, 生基, 地基から2 (又は物, 化, 生, 地から1) 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 【6教科8 (7) 科目又は5教科8 (7) 科目】 | 教科 | 科目名等 | <p>①大学入試センター試験の利用教科・科目について</p> <p>1. 選択教科・科目のうち、必要教科・科目数を超過して受験している場合には、高得点の教科・科目を選択する。ただし、地歴および公民からは、高得点の科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を選択する。同様に、理科で基礎を付していない1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を選択する。</p> <p>2. 「工業教養基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校 (中等教育学校の後期課程を含む。) において、これらの科目を履修した者 (大学入学資格検定試験合格者) で、これらの科目に合格した者を含む。) および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了 (見込) 者に限る。</p> <p>3. 前期日程を受験する者は、地歴および公民の2科目を選択すること。【世B, 日B, 地理B】から必ず1科目以上を選択すること。</p> <p>4. 後期日程を受験する者は、国語、地歴・公民、数学、理科から2科目または3科目を選択する際、次の選択を可とする。</p> <p>a. 地歴および公民から2科目 【世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1または2】 および【理社, 倫, 政経, 倫・政経から0または1】を組み合わせて2科目を選択。</p> <p>b. 数学から2科目 【数Ⅰ, 数Ⅱ・数Ⅲ・数Ⅳから1】および【教Ⅰ・教Ⅱ・教Ⅲ・教Ⅳ, 工・簿, 情報から1】から1科目ずつの計2科目を選択。</p> <p>c. 理科の基礎を付している科目から2科目と、国語、地歴、公民、数学から1科目の計3科目を選択。</p> <p>d. 理科の基礎を付していない科目から1科目と、国語、地歴、公民、数学から1科目の計2科目を選択。</p> <p>5. 地歴又は公民で2科目を選択する場合には、同一名称のA・B出題科目、同一名称を含む出題科目同士との組み合わせはできない。</p> <p>6. 後期日程において、地歴および公民の中から第2解答科目の得点を選択する場合は、第1解答科目の得点を選択する。場合に限る。</p> <p>②B欄の経過措置科目の選択についての注意</p> <p>1. 旧教育課程の理科から1科目を利用する場合は、地歴および公民の場合と同様に、得点にかかわらず第1解答科目を選択する。</p> |
| | 後期日程 | 国 地歴 公民 教 | 国 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1または2 理社, 倫, 政経, 倫・政経から1 数Ⅰ, 数Ⅱ・数Ⅲ, 工・簿, 情報から1 数Ⅱ, 数Ⅲ・数Ⅳから1 物基, 化基, 生基, 地基から2 (又は物, 化, 生, 地から1) 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 【3教科4 (3) 科目又は2教科3科目】 | 教科 | 科目名等 | |
| 経済学部 | ビジネス・マネジメント学科 | 国 地歴 公民 教 | 国 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1または2 理社, 倫, 政経, 倫・政経から1 数Ⅰ, 数Ⅱ・数Ⅲ, 工・簿, 情報から1 数Ⅱ, 数Ⅲ・数Ⅳから1 物基, 化基, 生基, 地基から2 (又は物, 化, 生, 地から1) 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 【3教科4 (3) 科目又は2教科3科目】 | 教科 | 科目名等 | <p>①大学入試センター試験の利用教科・科目について</p> <p>1. 選択教科・科目のうち、必要教科・科目数を超過して受験している場合には、高得点の教科・科目を選択する。ただし、地歴および公民からは、高得点の科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を選択する。同様に、理科で基礎を付していない1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を選択する。</p> <p>2. 「工業教養基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校 (中等教育学校の後期課程を含む。) において、これらの科目を履修した者 (大学入学資格検定試験合格者) で、これらの科目に合格した者を含む。) および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了 (見込) 者に限る。</p> <p>3. 前期日程を受験する者は、地歴および公民の2科目を選択すること。【世B, 日B, 地理B】から必ず1科目以上を選択すること。</p> <p>4. 後期日程を受験する者は、国語、地歴・公民、数学、理科から2科目または3科目を選択する際、次の選択を可とする。</p> <p>a. 地歴および公民から2科目 【世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1または2】 および【理社, 倫, 政経, 倫・政経から0または1】を組み合わせて2科目を選択。</p> <p>b. 数学から2科目 【数Ⅰ, 数Ⅱ・数Ⅲ・数Ⅳから1】および【教Ⅰ・教Ⅱ・教Ⅲ・教Ⅳ, 工・簿, 情報から1】から1科目ずつの計2科目を選択。</p> <p>c. 理科の基礎を付している科目から2科目と、国語、地歴、公民、数学から1科目の計3科目を選択。</p> <p>d. 理科の基礎を付していない科目から1科目と、国語、地歴、公民、数学から1科目の計2科目を選択。</p> <p>5. 地歴又は公民で2科目を選択する場合には、同一名称のA・B出題科目、同一名称を含む出題科目同士との組み合わせはできない。</p> <p>6. 後期日程において、地歴および公民の中から第2解答科目の得点を選択する場合は、第1解答科目の得点を選択する。場合に限る。</p> <p>②B欄の経過措置科目の選択についての注意</p> <p>1. 旧教育課程の理科から1科目を利用する場合は、地歴および公民の場合と同様に、得点にかかわらず第1解答科目を選択する。</p> |

[3] システム工学部

1. 入試方法等

入学者の選抜は、大学入試センター試験ならびに本学が実施する個別学力検査等および調査書等の出願書類により総合して行います。

なお、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を全科目受験しなければ、個別学力検査を受験することはできません。

また、個別学力検査において、本学が指定する教科・科目等を全科目受験しなければ、合格者選考の対象にはなりません。

大学入試センター試験受験に際しての注意事項

本学における平成 27 年度入学者選抜における大学入試センター試験の取扱いは、下記のとおりですのでご注意ください。

○英語の受験について

大学入試センター試験で英語を受験する方は、筆記試験とリスニング試験の両方を受験しなければなりません。一方でも受験しなかった場合は、本学が行う個別試験を受験する資格がなくなります（重度聴覚障害者でリスニング試験免除者を除きます）。

2. 入学試験実施教科・科目等

| 学部・学科等名及び入学定員等 〔平成26年度 志願倍率〕 | 学力検査等の区分・日程 | 大学入試センター試験の 利用教科・科目名等 | | 個別学力検査等 教科等 | 科目名等 | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 | | | | | | | | | | 特別の入試方法等 | | | |
|---|-------------|--------------------------|--------------------------------|----------------|--------|--|--------|-----|------|------|-----|-----|------|-----|-----|----------|------|-------|--------------------|
| | | 教科 | 科目名等 | | | 試験の区分 | 国語 | 地歴 | 公民 | 数学 | 理科 | 外国語 | 総合問題 | 小論文 | 実技 | | 配点合計 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 試験の区分 | 国語 |
| システム工学部 システム工学科 〔4.6〕 前期 305人 後期 170 その他 100 その他 35 | 前期 2月25日 | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | 数 外 | 数 外 | 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング | センター試験 | 200 | *100 | *100 | 200 | 400 | 200 | 400 | 200 | | | 1100 | 推薦 私費外国 人留学生 |
| | | 地歴 公民 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | | | | 個別学力検査 | | | | | | | | | | | | |
| | | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | その他 | その他 | 総合問題「記述解答問題」 (システム工学を学ぶにふさわしい能力・ 適性等を判断する。) <詳細は、P24を参照してください。> | センター試験 | 200 | *100 | *100 | 200 | 300 | 200 | | | | | 1100 | 追加合格 |
| | | 地歴 公民 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | | | | 個別学力検査 | | | | | | | | 400 | | | | |
| | | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | その他 | その他 | 総合問題「記述解答問題」 (システム工学を学ぶにふさわしい能力・ 適性等を判断する。) <詳細は、P24を参照してください。> | 計 | 200 | *100 | *100 | 400 | 400 | 400 | | | | | 1500 | 追加合格 |
| | | 地歴 公民 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | | | | 計 | 200 | *100 | *100 | 300 | 300 | 200 | | | | | | |
| | | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | その他 | その他 | 総合問題「記述解答問題」 (システム工学を学ぶにふさわしい能力・ 適性等を判断する。) <詳細は、P24を参照してください。> | 計 | 200 | *100 | *100 | 300 | 300 | 200 | 400 | | | | 1500 | 追加合格 |
| | | 地歴 公民 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 | | | | 計 | 200 | *100 | *100 | 300 | 300 | 200 | 400 | | | | | |

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- ① 地歴および公民において、必要教科・科目数を超えて受験している場合には、得点にかかわらず第1解答科目を採択します。
- ② 「工業数理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)において、これらの科目を履修した者(大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目に合格した者を含みます。)および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込)者に限ります。
- ③ 外国語の「英語」については、筆記試験(200点)とリスニングテスト(50点)の合計得点を200点に換算したものを得点(兼点)とします。

【個別学力検査等】欄

数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aは全範囲を出題範囲とします。数学Bは「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。

3. 平成27年度大学入学選抜（大学入試センター試験）における旧教育課程履修者に対する経過措置

システム工学部

旧教育課程履修者は、数学または理科の受験科目について、以下のA欄に対応するB欄の経過措置科目を選択することもできます。

| 学部名 | 教科・科目名等 | 選抜 | | 大学入試センター試験の利用教科・科目名 | | 科目名等 | 旧教育課程履修者のうち希望する者の選択方法【B欄】 | 備考 |
|---------|---------|---|---|---|---------------------------|------|---------------------------|--|
| | | 教科 | 科目名等 | 教科 | 科目名等 | | | |
| システム工学部 | システム工学科 | 国 地歴 公民 数 理 外 | 国 世A, 世B, 倫, 政経, 倫・政経 現社, 倫, 政経, 倫・政経 教I, 教I・数Aから1 教II, 教II・数B, 工, 簿, 情報から1 物, 化, 生, 地から2 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 【5教科7科目】 | 教科 | 旧教育課程履修者のうち希望する者の選択方法【A欄】 | 科目名等 | 旧教育課程履修者のうち希望する者の選択方法【B欄】 | <p>◎大学入試センター試験の利用教科・科目について</p> <p>1. 地歴および公民において、必要教科・科目数を超えて受験している場合には、得点にかかわらず第1解答科目を選択する。</p> <p>2. 「工業教理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において、これらの科目を履修した者（大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目に合格した者を含む。）及び理科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込み）者に限る。</p> <p>◎B欄の経過措置科目の選択についての注意</p> <p>1. 旧教育課程の理科で2科目を選択する場合には、「理科総合A」と「理科総合B」との組み合わせはできない。</p> <p>2. 理科で2科目を選択する場合には、新・旧の異なる教育課程の科目の組み合わせはできない。</p> |
| | | | | | | | | |
| | | 国 世A, 世B, 倫, 政経, 倫・政経 現社, 倫, 政経, 倫・政経 教I, 教I・数Aから1 教II, 教II・数B, 工, 簿, 情報から1 物, 化, 生, 地から2 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 【5教科7科目】 | 教科 | 旧教I, 旧教II, 旧教B 理総A, 理総B, 物I, 化I, 生I, 地Iから2 | | | | |

4. 総合問題の出題内容

総合問題では、教科ごとの学習到達度だけではなく、問題に対する総合的な分析力・応用力を問います。

システム工学を学ぶにふさわしい能力・適性等を判断します。

出題内容は以下のとおりとします

| 学 科 | 科目名 | 出 題 内 容 | 注 意 事 項 |
|---------|--------|--|---|
| システム工学科 | 記述解答問題 | ものごとを科学的視点でとらえ、筋道をたてて論理的に分析し、その結果を総合的に判断して表現する能力を問います。具体的には、 ○数学的思考を問う論述問題、 ○図表を読み取る論述問題、 ○物理的思考を問う論述問題 が出題されます。 | ○数学的思考を問う論述問題、 ○図表を読み取る論述問題、 ○物理的思考を問う論述問題のうち、2題を選択して解答します（選択は問題を見てから決めることができます）。 |

[4] 観 光 学 部

1. 入試方法等

入学者の選抜は、大学入試センター試験ならびに本学が実施する個別学力検査および調査書等の出願書類により総合して行います。

なお、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を全科目受験しなければ、個別学力検査を受験することはできません。

また、個別学力検査において、本学が指定する教科・科目等を全科目受験しなければ、合格者選考の対象にはなりません。

大学入試センター試験受験に際しての注意事項

本学における平成 27 年度入学者選抜における大学入試センター試験の取扱いは、下記のとおりですのでご注意ください。

○英語の受験について

大学入試センター試験で英語を受験する方は、筆記試験とリスニング試験の両方を受験しなければなりません。一方でも受験しなかった場合は、本学が行う個別試験を受験する資格がなくなります（重度聴覚障害者でリスニング試験免除者を除きます）。

2. 入学試験実施教科・科目等

| 学部・学科等名及び入学定員等 〔平成26年度 志願倍率〕 | 学力検査等の区分・日程 | 大学入試センター試験の 利用教科・科目名等 | | 個別学力検査等 2段階 併選 抜 | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 | | | | | | | 特別の 入試方法 等 | | |
|---|-------------|--------------------------|--|---------------------------|------------------------|--------------|--------------|------|-----|-----|-----|------------------|----------|-----------|
| | | 教科 | 科目名等 | | 試験の区分 | 国語 | 歴史 | 公民 | 数学 | 理科 | 外国語 | | 総合 問題 | 小論文 実技 |
| 福光学部 (5.3) 福光経営学科 地域再生学科 110人 前期 50 後期 35 その他 25 | 前期 2月25日 | 国 | 世B, 地理B } から2 世A, 地理A, 倫・政経 } から1 現代社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 教I, 教II, 教Aから1 } 情報から1 教II, 教I, 教B, 工, 簿, 情報から1 } 物, 生, 地から1) 物基, 化基, 生基, 地基から2 (又は物, 化, 生, 地から1) 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 (6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目) | センター試験 | 200 | *100 *100 | *100 *100 | 200 | 100 | 200 | 200 | | | 900 |
| | | 国 教 理 外 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 現代社, 倫, 政経, 倫・政経 } または2 教I, 教II, 教Aから1 } から1 教II, 教I, 教B, 工, 簿, 情報から1 } から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 } から1 (又は物, 化, 生, 地から1) 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 (3教科4(3)科目又は2教科3科目) | 個別学力検査 | *300 | | | *300 | | | | | | 600 |
| | 後期 3月12日 | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 現代社, 倫, 政経, 倫・政経 } または2 教I, 教II, 教Aから1 } から1 教II, 教I, 教B, 工, 簿, 情報から1 } から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 } から1 (又は物, 化, 生, 地から1) 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 (3教科4(3)科目又は2教科3科目) | センター試験 | 200 | *100 *100 | *100 *100 | 200 | 100 | 200 | 200 | | | 1500 |
| | | 国 教 理 外 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 現代社, 倫, 政経, 倫・政経 } または2 教I, 教II, 教Aから1 } から1 教II, 教I, 教B, 工, 簿, 情報から1 } から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 } から1 (又は物, 化, 生, 地から1) 英 (リスニングを含む), 独, 仏, 中, 韓から1 (3教科4(3)科目又は2教科3科目) | 個別学力検査 | | | | | | | 400 | | 400 | |
| | | | | 計 | | | | | | | | 400 | | 1000 |

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- ① 選択教科・科目のうち、必要教科・科目数を超えている場合には、高得点の教科・科目を選択します。ただし、地歴および公民から1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を採択します。同様に、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます。)において、これらの科目を履修した者(大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目に合格した者を含みます。)および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了(見込)者に限ります。
- ② 「工業数理基礎」「簿記・会計」は、地歴および公民の2科目から1科目を選択し、第1解答科目を採択します。第1解答科目を採択する際には、第1解答科目を採択すること。第1解答科目を採択する際には、第1解答科目を採択すること。
- ③ 前期日程を受験する者は、地歴および公民の2科目から1科目を選択し、第1解答科目を採択すること。
- ④ 後期日程を受験する者は、地歴および公民の2科目から1科目を選択し、第1解答科目を採択すること。
- ⑤ 後期日程を受験する者は、理科で基礎を付した科目から2科目を選択し、他の教科から1科目の計3科目を選択すること。
- ⑥ 外国語の「英語」については、筆記試験(200点)とリスニングテスト(50点)の合計得点を200点に換算したものを得点(素点)とします。
- ⑦ 地歴または公民で2科目を選択する場合には、同一名称を含む出題科目同士との組み合わせはできません。
- ⑧ 後期日程において、地歴および公民の中から第2解答科目の得点を採択する場合は、第1解答科目の得点を採択する場合があります。

【個別学力検査等】欄

- ① 前期日程の「国語総合・国語表現I」については、近代以降の文章、古典(古文、漢文)から出題します。
- ② 数学I, 数学II, 数学Aは全範囲を出題範囲とします。数学Bについては、「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。

3. 平成27年度大学入学選抜（大学入試センター試験）における旧教育課程履修者に対する経過措置

観光学部

旧教育課程履修者は、**数学**または**理科**の受験科目を選択することでもできます。

| 学部名 | 教科・科目名等 | 選抜 | 新・旧教育課程履修者の選択方法【A欄】 | | 旧教育課程履修者の選択方法【B欄】 | | 備考 |
|--------|---------|------|---------------------|--|-------------------|--|---|
| | | | 教科 | 科目名等 | 教科 | 科目名等 | |
| 観光経営学科 | 前期日程 | 一般入試 | 国 | 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から2 数Ⅱ, 数Ⅰ・数Aから1 | 数 | 旧教Ⅰ・旧教Aから1 | ◎大学入試センター試験の利用教科・科目について 1. 選択教科・科目のうち、必要教科・科目数を超えて受験している場合には、高得点の教科・科目を選択する。ただし、地歴および公民から1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を選択する。同様に、理科で基礎を付していない1科目を利用する場合も、得点にかかわらず、第1解答科目を選択する。2. 「工業教理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択履修できる者は、高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において、これらの科目を履修した者（大学入学資格検定試験合格者で、これらの科目に合格した者を含む。）および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学修した（見込）者に限る。 3. 前期日程を受験する者は、地歴および公民の2科目を選択する際、【世B, 日B, 地理B】から必ず1科目以上を選択すること。 4. 後期日程を受験する者は、地歴および公民から2科目を選択し、又は数学の【教Ⅰ, 教Ⅰ・数Aから1】および【教Ⅱ, 教Ⅱ・数B, 工, 簿, 情報から1】から1科目ずつの計2科目を選択することができる。 5. 後期日程を受験する者は、理科で基礎を付した科目を選択する場合は、基礎を付した科目から2科目、他の教科から1科目の計3科目を選択すること。 6. 地歴又は公民で2科目を選択する場合には、同一名称のA・B出題科目、同一名称を含む出題科目同士との組み合わせはできない。 7. 後期日程において、地歴および公民の中から第2解答科目の得点を選択する場合は、第1解答科目の得点を選択する場合に限る。 |
| | | | 理 | 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【6教科8 (7) 科目又は5教科8 (7) 科目】 | 理 | 旧教Ⅱ・旧教B 理総A, 理総B, 物Ⅰ, 化Ⅰ, 生Ⅰ, 地Ⅰから1 | |
| 地域再生学科 | 後期日程 | 一般入試 | 国 | 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } または2 数Ⅱ, 数Ⅰ・数Aから1 | 数 | 旧教Ⅰ・旧教Aから1 | ◎B欄の経過措置科目の選択についての注意 旧教育課程の理科から1科目を利用する場合は、地歴および公民の場合と同様に、得点にかかわらず第1解答科目を選択する。 |
| | | | 理 | 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【3教科4 (3) 科目又は2教科3科目】 | 理 | 旧教Ⅱ・旧教B 理総A, 理総B, 物Ⅰ, 化Ⅰ, 生Ⅰ, 地Ⅰから1 | |
| 観光 | | | | | | | |
| 学 | | | | | | | |
| 部 | | | | | | | |

[5] 平成 27 年度和歌山大学入学者選抜個別学力検査における旧教育課程履修者
に対する経過措置

個別学力検査における「数学」、「理科」の旧教育課程履修者に対する経過措置

| | | |
|------------|------|--|
| 数学 | 全学部 | 新教育課程による出題科目とこれに対応する旧教育課程との共通の内容を出題するなど、旧教育課程履修者に不利にならないように配慮した出題を行う。 |
| 理科 (物理) | 教育学部 | 新教育課程による出題科目とこれに対応する旧教育課程との共通の内容を出題するなど、旧教育課程履修者に不利にならないように配慮した出題を行う。 |
| 理科 (化学) | 教育学部 | 新教育課程による出題科目とこれに対応する旧教育課程との共通の内容を出題するなど、旧教育課程履修者に不利にならないように配慮した出題を行う。 なお、旧教育課程の「物質の構造と化学平衡」、「生活と物質」、「生命と物質」の内容を出題範囲とする。ただし、「生活と物質」、「生命と物質」については、出題する場合は両項目とも出題し、いずれか一方を選択解答とする。 |
| 理科 (生物) | 教育学部 | 新教育課程による出題科目とこれに対応する旧教育課程との共通の内容を出題するなど、旧教育課程履修者に不利にならないように配慮した出題を行う。 ただし、旧教育課程の「生物の分類と進化」、「生物の集団」から出題する場合は、いずれか一方を選択解答とする。 |
| 理科 (地学) | 教育学部 | 新教育課程による出題科目とこれに対応する旧教育課程との共通の内容を出題するなど、旧教育課程履修者に不利にならないように配慮した出題を行う。 ただし、旧教育課程の「地球の探求」、「地球表層の探求」、「宇宙の探求」から出題する場合は、3項目の中から選択解答とする。 |

[6]個別学力検査等の試験場および試験日時等

1. 試験場

和歌山大学 栄谷キャンパス（和歌山市栄谷930）

2. 前期日程

◎ 試験期日：平成27年2月25日（水）

| 学 部 | 教科・科目等の試験時間 | | |
|---------|-------------|-----|---------------|
| 教 育 学 部 | 地理歴史 | 理 科 | 10：00 ～ 11：30 |
| | 外 国 語 | | 12：40 ～ 14：10 |
| | 国 語 | 数 学 | 15：00 ～ 16：30 |
| | 実 技 検 査 | | 10：00 ～ 16：20 |
| 経 済 学 部 | 外 国 語 | | 12：40 ～ 14：10 |
| | 数 学 | | 15：00 ～ 16：30 |
| システム工学部 | 外 国 語 | | 12：40 ～ 14：10 |
| | 数 学 | | 15：00 ～ 17：00 |
| 観 光 学 部 | 外 国 語 | | 12：40 ～ 14：10 |
| | 国 語 | 数 学 | 15：00 ～ 16：30 |

3. 後期日程

◎ 試験期日：平成27年3月12日（木）

| 学 部 | 教科・科目等の試験時間 | | |
|---------|-------------|---------|---------------|
| 教育学部 | 学校教育教員養成課程 | 小 論 文 | 10：00 ～ 12：00 |
| 経 済 学 部 | | 小 論 文 | 10：00 ～ 11：30 |
| システム工学部 | | 総 合 問 題 | 10：00 ～ 12：00 |
| 観 光 学 部 | | 小 論 文 | 10：00 ～ 11：30 |

4. 試験場案内

本冊子の裏表紙に本学への交通アクセスを掲載していますので、参照してください。

試験当日のバスは、JR 和歌山駅前、南海和歌山市駅前、南海和歌山大学前前から定期便の他に臨時便が運行されます。混雑が予想されますので余裕を持って乗車してください。

なお、試験当日の臨時バス等の時刻表は、2月中旬頃に本学ウェブサイト「入試情報」に掲載を予定しています。

IX 障害を有する入学志願者の事前相談について

障害を有する入学志願者〔学校教育法施行令第22条の3に定める障害の程度〕は、受験上および修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願に先立ち、下記要領により申し出てください。また、負傷等により特別な配慮等を必要とする場合も同様に申し出てください。

なお、申請内容によっては、本学の試験日までに対応できず、特別な配慮が講じられないこともありますので、なるべく早く申し出てください。

1. 相談期日

原則として、平成26年12月15日（月）までに申し出てください。ただし、例に示すような特別な準備を必要としない程度の障害である場合は、平成27年1月21日（水）までに申し出てください。

例）＊点字による出題を要しない程度の障害

＊補聴器の使用により、聴き取りに支障のない程度の障害

＊車椅子等の使用により、移動に支障のない程度の障害

2. 相談手続

特別な配慮を希望する者は、下記の問い合わせ先に連絡をしてください。

問い合わせの後、本学より『事前相談申請書』（所定様式）を送付しますので、健康診断書等必要な書類を添付し、下記の問い合わせ先まで郵送または持参してください。なお、持参の場合は、保護者等代理人でも結構です。

『事前相談申請書』受理後、志願者またはその立場を代弁し得る保護者や出身学校関係者等との面談等を行うことがあります。面談等の日時は追って連絡します。

3. 問い合わせ先

〒640-8510 和歌山市栄谷930番地

和歌山大学入試課

TEL 073-457-7116

〈学校教育法施行令第22条の3準拠〉

| 区 分 | 障 害 の 程 度 |
|--------------|--|
| 視覚障害者 | 両眼の視力がおおむね 0.3 未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のものうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの |
| 聴覚障害者 | 両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの |
| 肢体不自由者 | 1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2. 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの |
| 病弱者 | 1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの |
| その他（発達障害を含む） | 上記の区分以外の者で特別な配慮を必要とする者 |

X 合格の発表等について

1. 合格の発表

(1) 合格の発表は、次のとおり、合格者の受験番号を掲示します。

| 試験区分 | 日 時 | 掲 示 場 所 |
|------|--------------------|------------|
| 前期日程 | 平成27年3月6日(金) 午前9時 | 和歌山大学構内掲示板 |
| 後期日程 | 平成27年3月21日(土) 午前9時 | |

(2) 合格者には、合格発表日の午前中に合格通知書および入学手続関係書類等を発送します。

(3) 合格者については、国公立大学の分離分割方式による合格および追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名および受験番号ならびに入学手続等に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センターおよび併願先の国公立大学へ送付しますのでご了承ください。

(4) インターネットによる合格発表を下記のとおり行います。

和歌山大学ウェブサイト URL : <http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>

掲載日時 : [前期日程] 3月6日(金) 正午～3月10日(火) 正午

[後期日程] 3月21日(土) 正午～3月25日(水) 正午

これは、本学が情報提供の一環として行うものであり、公式の合格発表は上記(1)および(2)に記載しているとおりです。また、当日は多数のアクセスにより、応答が遅くなったり、回線等の障害が発生し閲覧が出来なくなることも予想されますのでご留意願います。

(5) 電話等による選考結果についての問い合わせには一切応じません。

(6) 試験当日、JR和歌山駅、南海和歌山市駅及び南海和歌山大学前駅付近や大学周辺で行われることのある合否電報受付等(有料)については、本学は一切関与していませんので、ご注意ください。

2. 欠員補充の方法(追加合格)

(1) 入学手続完了者が入学定員(募集人員)に満たない場合は、前期日程または後期日程のいずれかの選抜の不合格者の中から、合格者の追加を行うことがあります。

(2) 追加合格の通知は、平成27年3月28日(土)から3月31日(火)までの間に、直接、受験者本人に対してのみ行います。

(3) 出願後、入学願書に記載した「追加合格連絡先」に変更がある場合は、すみやかに和歌山大学入試課に届け出てください。

(4) 受験者本人の不在や「追加合格連絡先」変更の届出がないなどの理由により、追加合格の通知ができなかった場合は、追加合格者としての取り扱いが無かったものとする場合があります。

(5) 追加合格の実施について、テレホンサービスでも情報を提供します。

サービス期間 : 平成27年3月28日(土)～3月31日(火)

電 話 番 号 : 073-457-7971 (通話料金は有料)

3. 欠員補充の第2次募集

追加合格によっても、なお入学定員に欠員が生じた際には、新たに欠員補充の第2次募集を行うことがあります。なお、欠員補充の第2次募集は、平成27年3月末に公表します。

XI 入学手続

入学手続方法は、合格通知と共に送付される「入学手続案内」でお知らせします。

なお、下記の入学手続期間内に入学手続を行わなかった場合は、本学への入学を辞退したものと取り扱います。

1. 入学手続期間・場所

| | 入学手続期間 | 入学手続場所 |
|---------|--|--------|
| 前期日程合格者 | 平成27年3月14日(土)および3月15日(日) 午前9時30分から午後5時00分まで | 和歌山大学 |
| 後期日程合格者 | 平成27年3月26日(木)および3月27日(金) 午前9時30分から午後5時00分まで | |

2. 入学手続に必要なもの

| | |
|---------------|--|
| 大学入試センター試験受験票 | 入学手続完了後、押印の上返却します。 |
| 合格通知書 | 本人との照合の上、返却します。 |
| 入学料 | 282,000 円 ※上記記載の金額は、平成26年度のもので、平成27年度入学者の納付金額については、決定次第、別途お知らせします。 (注) 入学料は本学所定の振込依頼書により、入学手続時までに納入してください。これについては、合格者に送付する入学手続案内で納入方法の詳細をお知らせします。 |
| 授業料 | 前期分 267,900 円 年 額 535,800 円 ※上記記載の金額は、平成26年度のもので、平成27年度入学者の納付金額については、決定次第、別途お知らせします。 ※在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。 (注) 入学手続案内で、納入方法の詳細をお知らせします。 初年度の授業料は入学料と合わせて納入することができます。 |

3. 入学にあたっての留意事項

- (1) 合格者で、本学へ入学できる者は、他の国公立大学に「入学手続」をしていない者に限ります。
- (2) 合格者は、入学手続期間内に「入学手続」を完了しないと、「入学辞退者」として取り扱います。
- (3) 本学の「入学手続」を完了した者が、本学への入学を取り消して、他の国公立大学に「入学手続」をすることはできません。

XII 入試情報の開示

本学では、平成 27 年度一般入試における主な入試情報を下記のとおり開示します。

- (1) 志願者数・受験者数・合格者数・追加合格者数・入学者数
- (2) 試験問題および正解・解答例……平成 27 年 4 月以降に開示します。
- (3) 合格最高・最低点および合格者の平均点……募集単位ごとに、合格者の最高点、最低点、平均点を大学入試センター試験と個別学力検査の総合点で平成 27 年 4 月以降に開示します。ただし、募集人員または合格者のいずれかが 10 人以下の入試については開示しません。
- (4) 試験成績……受験者本人からの請求（遠隔地の場合、郵送可）により、以下のとおり開示します。
 - ① 開示期間、曜日、時間：平成 27 年 5 月から 6 月の 2 か月間。月曜日から水曜日（祝祭日を除く）の 9 時～17 時。
 - ② 開示内容：大学入試センター試験の合計点および個別学力検査の科目別の得点および募集単位ごとの総合点による順位を開示します。ただし、順位は、募集人員または合格者のいずれかが 10 人以下の入試については開示しません。
 - ③ 開示方法：「入試情報開示通知書」を交付します。
 - ④ 提出書類：「試験成績開示申請書」
なお、「本学の受験票」と「大学入試センター試験の受験票」により本人確認を行いますので、上記の受験票 2 点を紛失しないように注意してください。
 - ⑤ 開示場所：和歌山大学入試課
- (5) 調査書……受験者本人からの請求により成績評価および出欠の記録についてのみ開示します。(閲覧のみ)
開示期間、必要書類および開示場所等については、試験成績の開示に準じます。

◎入試情報の問い合わせ先

和歌山大学入試課

〒640-8510 和歌山市栄谷930番地

TEL 073-457-7116 (直通)

E-mail nyushika@center.wakayama-u.ac.jp

<http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>にて詳細を公表しています。

XIII 個人情報の取り扱いについて

出願時のデータや、試験実施結果、入学手続きの状況等の個人データを入試に関する調査・研究のために利用することがありますので、予めご了承願います。なお、これらの個人データを利用する場合も、個人を特定する内容の資料や個人を特定できる資料を作成することはありません。

XIV 学生募集要項の請求方法

1. 学生募集要項の種類

| 要 項 名 | 出 願 期 間 |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 一般入試学生募集要項 ※全学部在中 (本冊子) | 平成 27 年 1 月 26 日 (月) ～ 2 月 4 日 (水) |
| 教育学部推薦入試学生募集要項 | 平成 27 年 1 月 6 日 (火) ～ 1 月 8 日 (木) |
| 経済学部推薦入試・スポーツ推薦入試学生募集要項 | 平成 26 年 11 月 4 日 (火) ～ 11 月 7 日 (金) |
| システム工学部推薦入試学生募集要項 | 平成 27 年 1 月 6 日 (火) ～ 1 月 8 日 (木) |
| 観光学部推薦入試学生募集要項 | 平成 26 年 11 月 4 日 (火) ～ 11 月 11 日 (火) |

2. 学生募集要項の請求方法

(1) 全国学校案内資料管理事務センターの「大学案内・募集要項受付システム」

① 和歌山大学のウェブサイトから請求する場合

本学のウェブサイト (<http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>) から直接請求できます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

② テレメールで請求する方法

ア 下記のいずれかの方法でテレメールにアクセスしてください。

| | | | |
|--|--|---|---------------|
|  テレメール | インターネット（携帯電話・スマホ・パソコン）の場合 | 自動音声応答電話の場合 | |
| | http://telemail.jp パソコン・携帯電話各社 共通アドレス | IP 電話 | 050-8601-0101 |
| | バーコード ※対応する携帯電話・スマホで読み取れます。アクセスした場合は資料請求番号の入力は不要です。 |  | |

※IP電話：一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約12円です。

イ 資料請求番号（6桁）を入力またはプッシュしてください。

| 資料名 | 資料請求番号 | 送料 | |
|---------------------|---------|--------|------|
| 一般入試学生募集要項 | 499222 | 300円 | |
| 一般入試学生募集要項＋大学案内 | 499223 | 350円 | |
| 推薦入試学生募集要項 | 教育学部 | 215円 | |
| | システム工学部 | 180円 | |
| | 観光学部 | 180円 | |
| 推薦入試・スポーツ推薦入試学生募集要項 | 経済学部 | 488029 | 215円 |
| 大学案内 | 499221 | 300円 | |

※料金はお届けした資料に同封されている支払方法に従いお支払ください。（支払いに際しては手数料が別途必要になります。）

ウ あとはガイダンスに従って登録してください。

※発送開始日以前に請求された資料は予約受付となり、発送開始日になりましたら一斉に発送されます。その際は、発送開始日から2～3日程で資料が届きます。

※発送開始日以降に請求された資料は請求してから2～3日程で届きます。ただし、受付日時や地域、配達事情によっては、4日以上かかる場合もあります（お届けまでの日数は請求日の翌日を起算とします）。なお、5日以上経っても届かない場合は、テレメールカスタマーセンターへお問い合わせください。

③ 郵便局で請求する方法（一般入試学生募集要項のみ）

最寄りの郵便局（旧・普通郵便局に限る）に設置されている「国公立大学・短期大学及び通信教育課程、大学校募集要項（願書）請求申込書」（郵便局用願書請求カタログ）に必要事項を記入し、料金と払込手数料130円を添えて、最寄りのゆうちょ銀行または郵便局の貯金窓口で申し込んでください

※ ① ② ③での請求についての問合せ先

『テレメールカスタマーセンター』 TEL 050-8601-0102 (9:30～18:00)

(2) 「モバっちょ」で請求する方法

ア 携帯電話を利用する場合

下記のQRコードでアクセスしてください。

「モバっちょ」



| 資料名 | 料金 |
|---------------|------|
| 大学案内 | 250円 |
| 入学者選抜要項＋大学案内 | 300円 |
| 一般入試募集要項 | 250円 |
| 一般入試募集要項＋大学案内 | 300円 |

※料金は送料・手数料込みです。

※携帯電話の機種、携帯電話会社との契約状況によってご利用できない場合がございます。

イ パソコンの場合（クレジットカード決済のみとなりますが同じ料金で請求できます）



【URL】 <http://djc-mb.jp/wakayama-u/>

※ (2)での請求についてのお問合せ先

大学情報センター株式会社 モバっちょカスタマーセンター

TEL. 050-3540-5005 (平日 10:00～18:00)

(3) 郵送による請求方法

請求用封筒の表面に「〇〇学部〇〇入試学生募集要項請求」（〇〇には、希望する学部名および一般入試・推薦入試等の選抜の名称を記入）と朱書きし、該当分の郵便切手（下表参照）を貼った返信用封筒〔角型 2 号（33 c m×24 c m）；表面に受信者の郵便番号・住所・氏名および朱書きで「ゆうメール」と明記すること〕を同封して下記の請求先まで送付してください。

なお、本学より連絡等を行う場合がありますので、必ず郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記した文書も併せて同封してください。

- 請求先 〒640-8510 和歌山市栄谷 9 3 0 和歌山大学入試課
- 返信用切手（返信用封筒に貼付）

| 学生募集要項等の種別 | | ゆうメール便の場合 |
|---------------------|---------|-----------|
| 一般入試学生募集要項 | | 300 円 |
| 一般入試学生募集要項＋大学案内 | | 350 円 |
| 推薦入試学生募集要項 | 教育学部 | 215 円 |
| | システム工学部 | 180 円 |
| | 観光学部 | 180 円 |
| 推薦入試・スポーツ推薦入試学生募集要項 | 経済学部 | 215 円 |
| 大学案内 | | 300 円 |

※外国に居住する場合は、募集要項の種別毎に返信用切手の代わりに航空便書状で上表の重量料金相当の国際返信切手券を同封してください。

(4) 本学へ直接来学し、受け取る方法

| 配布場所 | 配布時間 |
|----------------------|-------------------------------|
| 和歌山大学入試課（事務局棟 3 階） | 平日 9：00～17：00 |
| 事務局棟玄関ホール（和歌山大学バス停前） | 平日の上記配布時間帯以外および土日祝日でも配布しています。 |

(5) その他

「学生募集要項」の E メールによる請求はできません。

3. 学生募集要項に関する問い合わせ先

入試課又は各学部の入試担当係へお問い合わせください。

○和歌山大学入試課

〒640-8510 和歌山市栄谷 930 番地 TEL 073-457-7116

E-mail nyushika@center.wakayama-u.ac.jp

○各学部の入試担当係

| 学 部 | 入試担当係 | 電話（直通） |
|---------|-------|--------------|
| 教 育 学 部 | 教 務 係 | 073-457-7219 |
| 経 済 学 部 | 教 務 係 | 073-457-7805 |
| システム工学部 | 教 務 係 | 073-457-8021 |
| 観 光 学 部 | 教 務 係 | 073-457-8542 |

XV 宿泊の案内

受験の際、宿泊を希望する受験者は、下記の旅行業者等が斡旋しておりますので、申し込んでください。

| 旅行業者名等 | 申込み先等 |
|---|--|
| 和歌山大学消費生活協同組合 TEL:073-452-8497 【宿泊の申込受付・手配】 (株)大学生協事業センター 京都支店 TEL:075-711-7502 | 「和大生のための受験生・新入生応援サイト」からオンラインにて宿泊のお申し込みが可能です。 ※申込方法・受付期間等詳細については、下記サイトをご覧ください。 受験生・新入生応援サイト URL http://wu.hanshin.coop/startbook/index.html 和大生協 URL http://wu.hanshin.coop/ |
| 和歌山県旅館ホテル生活衛生同業組合 | 〒640-8241 和歌山市雑賀屋町東ノ丁 64 TEL 073-431-1366 FAX 073-431-1367 電話または FAX にてお問い合わせください。同組合より「受験宿泊案内」が送付されます。 |
| 近畿日本ツーリスト（株）和歌山支店 | TEL 073-431-7221 |
| (株) J T B 西日本 和歌山支店 | TEL 073-432-5860 |

〔1〕学部の紹介

◎ 教育学部

1949年（昭和24年）、和歌山師範学校、和歌山青年師範学校を統合して和歌山大学学芸学部が設置され、その後教育学部に名称が変更されました。発足以来「学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究・教授し、知的・道徳的及び応用的能力を展開せしめることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成する」ことを教育目標として、優秀な人材を送り出してきました。とくに教員の養成においては、幅広い教養・学芸のうえに教員としての専門的教養を修得させることを重視してきました。

2008年（平成20年）4月、教育学部をめぐる新しい状況に対応するために改組し、学校教育教員養成課程、総合教育課程を設置しました。

学校教育教員養成課程は、従来の教育諸科学を中心に学ぶ「教育科学コース」、教科の力を高める「教科教育コース」に加え、幼児教育との接続を視野に入れて小学校教育を総合的に学ぶ「児童教育コース」を新たに設けました。

総合教育課程は、「文化研究プログラム」、「環境教育プログラム」の2つのプログラムを設置し、学際的なアプローチをすることによって、現代社会の複雑な諸問題に対応できる人材の育成をめざします。

学校教育教員養成課程、総合教育課程はいずれも1～2年次で学んだ基礎的教養の上に、専攻に属して専門分野の研究を深め、3年次からは卒業研究を行います。本学部はさまざまな専攻分野の教員をかかえており、学生は自分の興味に応じて学ぶことができます。また、少人数の授業など学生へのきめ細かい指導が展開されています。

なお、教員としていっそう優れた資質と高度な専門性をさらに磨くため、大学院教育学研究科（修士課程）も設置されています。

| |
|------------|
| 学校教育教員養成課程 |
|------------|

この課程は、人間と教育に関する深い理解と、科学、芸術、文化に関する専門的知識にもとづいて、次代を担う子どもたちの成長・発達を援助していくことのできる高度の資質・能力をもった教員と教育支援職員の養成を目的とします。

また、この課程には教育科学・教科教育・児童教育の3つのコースがあります。教育科学コースは教育学・心理学・特別支援教育学・教育実践学の教育諸科学から、また、教科教育コースは各教科から、それぞれ一つの専門分野を深めることで、小・中・高等学校と特別支援学校の教員をめざすものです。一方、児童教育コースは小学校に特化し、教育科学と教科教育の両面を結びつけて総合的な視点をもった小学校教員をめざすものです。

教育科学コース

このコースでは、教育科学の基礎を学んで、子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、教育に関するさまざまな科学・研究分野を学びます。さらに、学校教育の基本的課題のみならず今日の学校内外で多発する複雑で深刻な教育問題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。そのため、1年次～2年次には基礎的な教育科学を学び、2年次～4年次には一人一人の関心に沿って教育学、心理学、特別支援教育学、教育実践学を深めていきます。卒業要件として、教育学、心理学、教育実践学の専攻生は〔小学校教員免許1種または中学校教員免許1種〕、特別支援教育学の専攻生は〔特別支援学校教員免許1種〕の取得が課せられます（ただし、特別支援学校教員免許1種を取得する場合は、小学校教員免許1種または中学校教員免許1種が基礎資格として必要となります）。いずれの専攻生も本人の希望により高等学

校教員免許や特別支援学校教員免許、幼稚園教員免許の取得が可能です。卒業後の進路としては、幼・小・中・高・特別支援学校の教員のほかに、心理職、児童施設指導員、障害者施設指導員、公務員、大学院進学などがあります。

教科教育コース

このコースでは、教科教育の基礎を学んで、子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、学校における各教科に関する幅広く深い知識と専門的技量を修得します。さらに、文化の継承・発展という教育の基本的課題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。そのため、1年次～2年次には基礎的な教育科学と教科内容を、2年次～4年次には各専攻（国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術・家庭・英語）に分かれて深く学んでいきます。卒業要件として〔各専攻に対応した中学校教員免許1種〕または〔小学校教員免許1種〕が課せられます。そのほかに本人の希望により高等学校教員免許や特別支援学校教員免許、幼稚園教員免許の取得が可能です。卒業後の進路としては、幼・小・中・高・特別支援学校の教員のほかに、諸種の教育関係職、公務員、大学院進学などがあります。

児童教育コース

このコースは教育科学・教科教育の分野の枠をこえて、小学校教員を幅広い視点からとらえようとするコースです。ここでは子どもの発達段階や、学級担任制という小学校の特徴に注目し、総合的複合的な力量を持った小学校教員の養成をめざします。

具体的な授業としては、小学校の教育現場を念頭においた教育科学・教科教育スタッフの共同授業、小学校のカリキュラム全体を見通していく授業などがあります。これらを通して、深い子ども理解に根ざした教科学習のありかた、教科の枠を越えてカリキュラム全体を構築していく能力の養成をめざします。さらに、幼児教育にも配慮し、幼・小連続した教育の視点から小学校をとらえていきます。

卒業要件として、〔小学校教員免許1種〕の取得が課せられます。加えて、原則として幼稚園教員1種免許を取得することになります。このほか、本人の希望により中学校教員免許、高等学校教員免許、特別支援学校教員免許などの取得が可能です。

卒業後の進路は、幼稚園・小学校教員をはじめとした学校教員、大学院進学などがあります。

総合教育課程

総合教育課程は教員免許の取得を目的としない課程です。この課程の特徴は、教育を学校という場から考えるのではなく、文化と環境という場から考える点にあります。教育の目的の最たるものは、人間と、その社会の存立のために、文化を受け継ぎ、これを再創造することにあります。それを可能にするためには、環境についての深い配慮が求められます。環境に対する慎重な心遣いを欠いてしまえば、たちどころに文化は危機に瀕し、教育の機能も完全にストップしてしまうでしょう。裏を返せば、そのような教育の働きを支え、人間と環境との適切なパートナーシップを維持するものが、そもそも文化の役割に他なりません。この課程では、従来の大学における専門教育の枠を越えて、二つのプログラム（「文化研究」「環境教育」）にそって、文科系と芸術系と理科系の幅広い分野を履修します。このような学習を通じて、特定の分野や領域に偏らない、豊かな教養と人間性を兼ね備えた人材の育成をめざします。

文化研究プログラム：このプログラムでは、特定の地域や領域を超えて、多角的で複合的な文化の研究を行います。そのために、文化を言語と映像（イメージ）と身体という点から捉え、これらの要素（部分）を組み合わせることで、現代の社会と文化の全体が理解できるように工夫されています。また、そのために複数の教員が共同で指導に当たります。

環境教育プログラム:このプログラムでは、人間の社会が多様な環境と適応し、豊かな生活の場を産み出すための研究を行います。社会学、歴史学、地理学、国際関係論、思想史から環境を考える社会系、動物学、植物学、地質学から地域の自然を考える自然系、生活科学、農林科学から消費生活と生産の循環について考える生活・産業系があり、フィールド・ワークなどの体験的な研究と教育を特徴としています。

卒業後の進路としては、国際社会や地域社会において、さまざまな文化や環境の問題に取り組む企業（例えば、メディア関連や情報関連の企業）、公務員（例えば、文化事業、生涯学習や地域教育の企画担当）、N G OやN P Oの職員、学芸員、大学院への進学などが見込まれます。

◎ 経済学部

本学部は、1922年(大正11年)に創立された旧制和歌山高等商業学校以来の伝統を受け継ぎ、これまで100年近くにわたって社会に多くの優れた人材を送り出してきました。伝統的な経済学科・経営学科に加えて、1965年(昭和40年)には、全国の大学に先駆けて「産業工学科」を設置し、いち早く情報化社会に対応する態勢を整えるとともに、1992年(平成4年)10月には、「社会システム設計学科」を設置しました。本学部は、1995年(平成7年)10月のシステム工学部創設にともない教育・研究体制を抜本的に改編して、「経済学科」「ビジネスマネジメント学科」「市場環境学科」の3学科体制となりました。また2001年(平成13年)4月には、大学院への進学を視野に入れて、より高度な専門的知識の習得を目指す、少人数編成の「エキスパート・コース」が開設されました。こうして本学部は、全国屈指の規模と伝統を誇る国立大学経済学部として今日に至っています。

本学部の教育・研究内容は、経済学、経営学、法律学という社会科学の主要分野を網羅するとともに、それらに加えて情報科学、人文科学にも及んでおり、まさしく社会や人間に関する総合的な教育・研究の場というにふさわしいものとなっています。

このように様々な専攻分野の教員が所属することにより、学生は自分の関心に従って自由に、かつ幅広く学ぶことができます。また基礎演習やゼミナールといった少人数編成の授業が多数開講され、これらの授業を通じて、学生は教員との交流を一層深めることができます。さらに本学部は国際交流にも力を注いでおり、毎年多くの外国人留学生を迎え入れる一方、8ヶ国20余りの大学と交換留学生協定を結んで学生を送り出しています。他方で情報技術教育において、経済学部生が優先的に使用できる多数のパソコンを備え、コンピュータ操作を実践的に学びながら、インターネットを通じて情報の収集や交換ができる環境を整えています。こうして本学部は、意欲あふれる学生にとって最良の勉学条件を備え、将来を担う経済人の育成にふさわしい教育機関となっています。

学生には、4年以上在学し所定の単位を修得することで、学士(経済学)の学位が授与されます。卒業後の進路は、金融・製造・流通・情報・公務など多様な業種にわたり、昨今の厳しい就職状況下でも就職率は高い水準を保っています。本学部では「キャリアセンター経済学部」を設置し、専門のスタッフを配置することで、手厚い就職サポート体制を組んでいます。さらに大学院経済学研究科修士課程「経済学専攻」「経営学専攻」「市場環境学専攻」に進学する学生も増えています。優秀な成績を取った学生には、3年次修了時点で大学院に進学できる制度が設けられています。

経済学 科

現代社会の歴史とダイナミックに変化する現在とを認識し、その将来を見通す上で、経済学はなくてはならないツールです。なぜならば、経済学こそは、社会の根本ともいべき経済的土台に注目し、経済現象の多様な側面とそれを生み出すメカニズムを解明する最も体系的な科学だからです。あるいはさらに、経済学は、経済現象と社会的諸現象との相互の結びつきを分析し、現代社会が抱える多様な諸問題をも解明しうる総合的な科学だからです。

経済学科は、これらの課題を果たすべく、「経済社会理論」「政策科学」「応用社会分析」の3つの大講座を設け、教育と研究を行っています。そして、それを通じて、現代社会のさまざまな問題を真摯に受け止め、幅広い視野に立って判断し行動できる、創造的な人材の育成をめざしています。

ビジネスマネジメント学科

企業は、その経済活動を通して、社会とさまざまな相互依存関係をもって成り立っています。近年の急速な情報化・国際化にともなう経済社会の変化の中で、これまでの企業・経営のあり方を問い直し、新たな展開を模索していく必要があります。

本学科はこのような時代の要請にマッチした体制を整えるため、「経営行動」「企業環境」「社会情報」の3つの大講座を設け、教育・研究活動を進めています。

旧来の枠にとらわれない新しい発想と方法による教育・研究を通じて、柔らかなマインドと高いスピリットをもった次のような人材の養成をめざしています。

- (1) 新しい時代の企業経営を進めていく上で、どのように行動すべきかを考え、さまざまな人と交わり、コミュニケーションのできる人。
- (2) 環境変化に柔軟かつ創造的に対応できる新しいマネジメント思考をもった人。

市場環境学科

経済や企業の活動は、市場を中心に営まれます。したがって、市場の大きさや役割、市場に対する規制の在り方等が、社会の発展に大きな影響を及ぼします。しかし、わが国の大学では、現代の社会において重要な市場とその環境を、さまざまな角度から研究し、教育する分野は必ずしも十分に開拓されてきたとはいえません。

そこで本学科では、「流通システム」「経済環境」「市場システム法」の3大講座を設け、経済や企業活動の中心である市場とその環境を新しい視点から取り扱います。社会における市場の役割とその重要性について学ぶとともに、カリキュラムを工夫して国際化、情報化社会にも対応できる社会人や職業人を養成することを目的としています。

◎ システム工学部

近年、科学技術の急速な発展に伴い、さまざまな工業技術が高度化・専門化してきました。また、一方で、エネルギー、環境、情報のようにグローバルに変化する課題から地域の産業の再生や振興といった課題にも対処することが要求されるようになってきました。前者は各専門分野の分化、後者は専門分野の統合・総合化を示唆しています。

このような状況の下にある産業界や社会の要請により柔軟に対応できるよう、システム工学部ではこれまでの5学科（情報通信システム学科、光メカトロニクス学科、精密物質学科、環境システム学科、デザイン情報学科）を1学科（システム工学科）へと改組をおこないます。システム工学科には、10教育研究領域（メジャー）を設定し、学生自らが将来を志向し、自らの興味や資質に見合った領域を主体的に選択することができます。具体的には、2つのメジャーを選択することによってコースを構成し、学科に相当する専門分野を

学ぶことができます。これによりこれまでの学科の枠組みに固執することなく、広範かつ柔軟な専門性をもった応用力・適用力が養われることが期待されます。以下に、各メジャーの教育目的とともにいくつかのコースを示します。

- メジャー：機械電子制御

機械電子制御メジャーでは、幅広い視点から論理的思考をもって問題の解決にあたることができる技術者をめざして、機械工学、応用数学などの素養を身につけた後、制御工学、ロボット工学などのシステム論を用いた設計、運用に関する専門技術について学びます。

- メジャー：電子計測

電子計測メジャーでは、人々の生活や産業を支える情報のセンシングや処理システムを創造できる技術者の育成をめざして、電気電子工学や光工学の基礎と、計測デバイスや計測情報処理などの要素技術、さらにこれらを統合した計測システムについて学びます。

- メジャー：応用物理学

応用物理学メジャーでは、物質におけるナノスケールの世界を探求し、新しい材料やデバイスの開発に対する社会のニーズに柔軟に対応できる能力を身につけられるように、物性物理学、材料科学、電子工学にわたる専門分野を学びます。

- メジャー：化学

化学メジャーでは、化学に関わる基本的法則を学んで物質に関する理解の基盤を作った後、ナノレベルの世界における化学現象や法則、原子・電子レベルでの相互作用の発現や、新たな機能性物質の設計・開発などの専門技術について学びます。

- メジャー：知能情報学

知能情報学メジャーでは、人間とコンピュータの新たな関係が再構築される時代において、科学者や技術者として活躍できる人材を育成するための専門教育を行い、人工知能やロボット、視覚情報処理、コンピュータグラフィクスなどについて学びます。

- メジャー：ネットワーク情報学

ネットワーク情報学メジャーでは、インターネット上に構築される、新たな情報ネットワーク社会において、科学者や技術者として活躍できる人材を育成するための専門教育を行い、モバイル通信やWebシステム、ビッグデータの解析などについて学びます。

- メジャー：環境科学

環境科学メジャーでは、環境を守り、育て、次世代に継承する人材の育成をめざして、環境破壊を未然に防ぐ、自然災害から命や暮らしを守る、地球温暖化に対応する、美しい風景を創造するなど、持続可能な社会の実現に貢献するための知識と技能を学びます。

- メジャー：環境デザイン

環境デザインメジャーでは、人と自然のよりよい関係を具現化できる人材の育成をめざして、自然から生活空間にいたる環境を一体として捉え、自然再生、防災緑化、自然エネルギーなど自然と調和する技術、景観保全やまちづくり、建築設計などの計画技術について学びます。

- メジャー：メディアデザイン

メディアデザインメジャーでは、メディアデザインと情報の双方の知識を持つ人材の育成をめざして、情報技術としてのサウンドやビジュアルのデザイン、人間工学に基づくインタフェースデザイン、さらにその基礎となるデザイン制作や企画方法について学びます。

- メジャー：社会情報学

社会情報学メジャーでは、人や社会を豊かにする情報システムを企画・設計する能力を身につけます。情報技術に支えられた社会の仕組みを知り、新しい情報システムの可能性を探求するために、ソフトウェア開発や高度なコミュニケーションについて学びます。

代表的なコースとそれを構成するメジャー、期待される就職先

| コース名 | メジャー名 | 期待される就職先 |
|-------------|--------------------|----------------------------------|
| ロボティクス | 機械電子制御 電子計測 | 機械・電機, 自動車, 精密機械業界 |
| ナノテクノロジー | 応用物理学 化学 | 半導体・電子部品, 精密機器, 化学・医薬品・化粧品, 素材業界 |
| コンピュータサイエンス | 知能情報学 ネットワーク情報学 | 情報・通信, IT サービス, 電機業界 |
| デザインシステム | 社会情報学 メディアデザイン | 情報・通信, IT サービス, 出版・印刷 |
| 環境システム | 環境デザイン 環境科学 | 公務員 (土木、建築、造園), 建設・住宅, 環境プラント業界 |
| 環境化学 | 環境科学 化学 | 環境職公務員, 環境計量士 |
| 電気電子工学 | 応用物理学 電子計測 | 電気電子メーカー, 精密機械業界 |

○システム工学部では、スーパーサイエンスティーチャープログラムを設けます。

これはシステム工学部卒業後、本学教育学研究科に進学し高校の理科の教員免許の取得を目指すコースです。

◎ 観光学部

21世紀は観光の時代と言われ、世界の多くの国において観光が基幹産業の一つになりつつあります。日本においても国家政策として観光が今世紀の重要戦略に位置づけられています。このような時代と社会の期待に応じて、2008年(平成20年)4月に国立大学初の観光学部を開設しました。観光学部には、「観光経営学科」と「地域再生学科」があります。どの学科を選択するかは、入学時点で決めず、入学後それぞれの内容を理解して、原則として希望をもとに決定します。また、「観光経営学科」に2つ、「地域再生学科」に3つのコースを設けています。コースは関連する科目をまとめたもので、コースを選択して、特定のコースに属すわけではありません。各コースの科目をすべて履修すると、コース名の学問領域が系統的に学べることを表します。観光学部に学び、幅広い教養と高い専門知識を修得するとともにホスピタリティ豊かな世界に通用する人材として活躍されることを期待しています。

観光経営学科

21世紀は「観光の時代」といわれ、「観光」は世界のあらゆる国・地域で最も有望な成長分野として注目を集めています。観光経営学科では、経営学を基礎に、ホスピタリティやマーケティングの視点から観光産業や関連の集客交流産業の経営戦略を策定・実行することで、地域の特性に精通した観光ビジネスをプロデュースできる能力を備えた人材の育成を目指します。本学科は、観光関連産業のマネジメントについて包括的に扱う「観光マネジメント」、観光関連商品のマーケティングについて学ぶ「観光マーケティング」の、2つのコースから構成されます。

地域再生学科

地域社会を構成する都市や農山村はいま、中心市街の衰退や過疎化など様々な困難に直面しています。これらの地域の再生を目指す上でのキーワードが観光です。一方、逆に地域そのもののあり方・魅力が観光資源となる時代を迎えました。こうした時代の変化を受けて、地域再生学科は、観光に通じながら地域再生のプランナーとして活躍できる人材の育成を目指します。本学科は、地域再生の理論と実践を包括的に扱う「観光まちづくり」、これを異文化交流など文化的視点から取り組む「観光文化」、地域再生のためのコンテンツの発掘と活用を学ぶ「観光コンテンツ」の、3つのコースから構成されます。

[2] 学生生活

(1) 入学時の諸経費

入学当初には入学料、授業料以外に次のとおり諸経費が必要です。

(注) 金額は平成 26 年度のもので、平成 27 年度入学者の納付金額は、決定次第、別途お知らせします。

| 諸会費等経費 | 教育学部 | 経済学部 | システム工学部 | 観光学部 |
|-----------|----------|----------|----------|----------|
| 学会費・同窓会費等 | 35,000 円 | 52,000 円 | 32,000 円 | 52,000 円 |
| 各種学生団体諸会費 | 22,500 円 | 22,500 円 | 22,500 円 | 22,500 円 |
| 合 計 | 57,500 円 | 74,500 円 | 54,500 円 | 74,500 円 |

(2) 入学料免除の制度

入学前 1 年以内において、本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の納付が困難であると認められる場合には、本人の申請に基づき選考のうえ、入学料の全額または半額を免除する制度があります。

(3) 入学料徴収猶予の制度

経済的理由により入学料を指定期間中に納めることができず、かつ、学業優秀と認められる学生について、本人の申請に基づき選考のうえ、入学年度の 7 月末日（入学年度の 7 月末日が日曜日に当たるときは前々日まで、土曜日に当たるときは前日まで）を限度として入学料の納付を猶予する制度があります。

(4) 授業料免除の制度

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生及び入学料の免除対象と同じ状態にある者（事由の発生時期が、1 年次後期分以降は各納期前 6 か月以内）について、本人の申請に基づき選考のうえ、授業料の全額または半額を免除する制度があります。

(5) 奨学金制度

① 日本学生支援機構の奨学金

(申込資格)

経済的理由により修業に困難があると認められる者。

(奨学生の決定)

本学が人物・健康・学力・家計の申込基準を満たしている奨学金申込者の中から選考のうえ、日本学生支援機構に推薦します。同機構では審査のうえ、採用を決定します。基準を満たしていても、予算の関係で採用されない場合があります。

(奨学金の種類)

<第一種奨学金（無利子）>……貸与月額 自宅通学 30,000 円, 45,000 円から選択
自宅外通学 30,000 円, 51,000 円から選択
<第二種奨学金（有利子）>……貸与月額 30,000 円, 50,000 円, 80,000 円, 100,000 円,
120,000 円から選択

(注) 貸与月額については、平成 26 年度実績であり、変更されることがあります。

② 地方公共団体等の奨学金

地方公共団体や各種企業団体等が扱っている育英奨学金制度があります。大学に直接募集のないものもありますので、各団体、出身の都道府県に各自問い合わせてください。

③ 家計急変奨学金

家計急変奨学金は、優れた資質をもちながら、学資負担者等の家計急変により修学を継続することが経済的に困難となった学生で他の経済支援が受けられない者、又は地震・風水害等の被害を受けたことにより、家計が急変し修学の継続が困難となった学生に対して、本学が独自に学費・生活費を援助する制度です。無利子・貸与制で、一時金 10 万円, 20 万円, 30 万円から申請者が選択のうえ、年度を通じて臨時に申請することができます。申請後は、選考のうえ決定となります。

(6) 学生傷害保険等

① 学生教育研究災害傷害保険（学研災）

学研災は、学生が正課中、学校行事中、通学中、大学施設内にいる間及び課外活動中等に不慮の事故にあい、傷害を受けたり、あるいはそれらが原因で後遺障害を負ったり、死亡した場合に、当該学生やその家族に保険金が支払われる全国的規模の補償制度です。

(注) 本学が学生全員の学研災の保険料を負担し、一括加入していますので、個々に加入する必要はありません。

② 学研災付帯賠償責任保険（学研賠）【任意加入】

学研賠は、国内外において、学生が正課中、学校行事中、課外活動中及びその往復等で、他人にケガを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより生ずる法律上の損害賠償を補償する制度です。

③ 学研災付帯学生生活総合保険（学総）【任意加入】

学総は、学研災及び学研賠では補償が不足すると思われる場合に、学研災に加えて任意に加入できる保険で、学研災や学研賠では補償されない病気や日常生活でのケガ等についても補償されます。この保険に加入すれば、賠償責任を負った場合の補償を含んでいるため、学研賠に加入する必要はありません。

(7) 学生寮

本学には、次のとおり学生寮が設置されています。

| 区 分 | 所 在 地 | 定 員 | 1 室 定 員 | 新入生入寮 可 能 人 員 | 備 考 |
|---------|-------------------------|-------|------------|------------------|-------------------|
| 学生寮(男子) | 和歌山市栄谷 930 番地 (大学構内) | 120 人 | 1 人 | 約 30 人 | 鉄筋コンクリ ート 5 階建 |
| 学生寮(女子) | | 50 人 | 1 人 | 約 10 人 | |

平成 26 年度の寄宿料は、月額 4,300 円となっています。なお、寄宿料は、和歌山大学学生寮管理運営規則の改正により変更することがあります。

寄宿料以外に、寮生活に伴う電気代、ガス代、水道料等の負担があります。

(8) 下宿・アパート

市街地及び大学周辺のアパート・マンション等の斡旋は、和歌山大学消費生活協同組合（073-456-4155）で行っていますので、各自問い合わせてください。なお、平均的な物件の家賃は月額 35,000 円です。

(9) 学生生活に関する問い合わせ先

| 問い合わせ事項 | 問い合わせ先 |
|---------------------|--------------------------------|
| 入学料免除、入学料徴収猶予、授業料免除 | 学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7122 |
| 奨学金 | 学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7128 |
| 学生傷害保険等 | 学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7123 |
| 学生寮 | 学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7132 |
| その他 | 学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7121 |

[3] 過去3年間の入学者選抜状況

平成26年度選抜状況

| 学部 | 学科・課程 | 日程等 | 募集人員 | 志願者 | | | 受験者 | | | 合格者 | | | 入学者 | | |
|---------|--------------------------------|--------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|
| | | | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 教育 | 学校教育教員養成課程 | 前期 | 96 | 175 | 130 | 305 | 168 | 123 | 291 | 59 | 43 | 102 | 58 | 39 | 97 |
| | | 後期 | 34 | 179 | 119 | 298 | 74 | 46 | 120 | 27 | 17 | 44 | 22 | 15 | 37 |
| | | 推薦計 | 15 | 15 | 28 | 43 | 15 | 28 | 43 | 1 | 14 | 15 | 1 | 14 | 15 |
| | | 計 | 145 | 369 | 277 | 646 | 257 | 197 | 454 | 87 | 74 | 161 | 81 | 68 | 149 |
| 学部 | 総合教育課程 | 前期 | 22 | 20 | 20 | 40 | 16 | 17 | 33 | 14 | 12 | 26 | 11 | 11 | 22 |
| | | 後期 | 10 | 37 | 40 | 77 | 16 | 17 | 33 | 6 | 7 | 13 | 3 | 6 | 9 |
| | | 推薦計 | 8 | 14 | 12 | 26 | 13 | 12 | 25 | 5 | 3 | 8 | 5 | 3 | 8 |
| | | 計 | 40 | 71 | 72 | 143 | 45 | 46 | 91 | 25 | 22 | 47 | 19 | 20 | 39 |
| | 教育学部 | 計 | 185 | 440 | 349 | 789 | 302 | 243 | 545 | 112 | 96 | 208 | 100 | 88 | 188 |
| 経済学部 | 経済学科 ビジネスマネジメント学科 市場環境学科 | 前期 | 200 | 402 | 192 | 594 | 385 | 180 | 565 | 160 | 84 | 244 | 135 | 68 | 203 |
| | | 後期 | 80 | 596 | 359 | 955 | 367 | 214 | 581 | 54 | 53 | 107 | 41 | 43 | 84 |
| | | 推薦 | 40 | 42 | 30 | 72 | 42 | 30 | 72 | 26 | 14 | 40 | 26 | 14 | 40 |
| | | スポーツ推薦 | 4 | 13 | 2 | 15 | 13 | 2 | 15 | 3 | 1 | 4 | 3 | 1 | 4 |
| | | 帰国社会人 | 3 | 2 | 1 | 3 | 2 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | | 計 | 330 | 1,059 | 585 | 1,644 | 813 | 428 | 1,241 | 246 | 153 | 399 | 206 | 127 | 333 |
| システム工学部 | 情報通信システム学科 | 前期 | 30 | 89 | 11 | 100 | 82 | 9 | 91 | 34 | 2 | 36 | 25 | 2 | 27 |
| | | 後期 | 20 | 129 | 9 | 138 | 61 | 6 | 67 | 30 | 5 | 35 | 23 | 2 | 25 |
| | | 推薦 | 7 | 27 | 3 | 30 | 27 | 3 | 30 | 5 | 2 | 7 | 5 | 2 | 7 |
| | | 計 | 57 | 245 | 23 | 268 | 170 | 18 | 188 | 69 | 9 | 78 | 53 | 6 | 59 |
| システム工学部 | 光メカトロニクス学科 | 前期 | 30 | 109 | 3 | 112 | 100 | 2 | 102 | 33 | 1 | 34 | 31 | 1 | 32 |
| | | 後期 | 20 | 88 | 4 | 92 | 36 | 3 | 39 | 23 | 2 | 25 | 16 | 1 | 17 |
| | | 推薦 | 7 | 26 | 1 | 27 | 26 | 1 | 27 | 7 | 1 | 8 | 7 | 1 | 8 |
| | | 計 | 57 | 223 | 8 | 231 | 162 | 6 | 168 | 63 | 4 | 67 | 54 | 3 | 57 |
| システム工学部 | 精密物質学科 | 前期 | 30 | 56 | 26 | 82 | 49 | 24 | 73 | 23 | 11 | 34 | 20 | 11 | 31 |
| | | 後期 | 20 | 64 | 29 | 93 | 31 | 13 | 44 | 18 | 10 | 28 | 14 | 10 | 24 |
| | | 推薦 | 7 | 5 | 3 | 8 | 5 | 3 | 8 | 3 | 3 | 6 | 3 | 3 | 6 |
| | | 計 | 57 | 125 | 58 | 183 | 85 | 40 | 125 | 44 | 24 | 68 | 37 | 24 | 61 |
| システム工学部 | 環境システム学科 | 前期 | 30 | 104 | 27 | 131 | 95 | 26 | 121 | 30 | 7 | 37 | 29 | 7 | 36 |
| | | 後期 | 20 | 132 | 44 | 176 | 77 | 28 | 105 | 17 | 3 | 20 | 12 | 3 | 15 |
| | | 推薦 | 7 | 21 | 11 | 32 | 20 | 11 | 31 | 6 | 2 | 8 | 6 | 2 | 8 |
| | | 計 | 57 | 257 | 82 | 339 | 192 | 65 | 257 | 53 | 12 | 65 | 47 | 12 | 59 |
| システム工学部 | デザイン情報学科 | 前期 | 30 | 56 | 33 | 89 | 52 | 31 | 83 | 22 | 14 | 36 | 22 | 12 | 34 |
| | | 後期 | 20 | 120 | 49 | 169 | 63 | 25 | 88 | 19 | 5 | 24 | 16 | 5 | 21 |
| | | 推薦 | 7 | 14 | 7 | 21 | 14 | 7 | 21 | 3 | 1 | 4 | 3 | 1 | 4 |
| | | 計 | 57 | 190 | 89 | 279 | 129 | 63 | 192 | 44 | 20 | 64 | 41 | 18 | 59 |
| | システム工学部 | 計 | 285 | 1,040 | 260 | 1,300 | 738 | 192 | 930 | 273 | 69 | 342 | 232 | 63 | 295 |
| 観光学部 | 観光経営学科 地域再生学 | 前期 | 50 | 60 | 97 | 157 | 58 | 94 | 152 | 14 | 44 | 58 | 14 | 39 | 53 |
| | | 後期 | 35 | 80 | 143 | 223 | 41 | 56 | 97 | 15 | 28 | 43 | 11 | 23 | 34 |
| | | 推薦 | 20 | 56 | 115 | 171 | 56 | 115 | 171 | 6 | 19 | 25 | 6 | 19 | 25 |
| | | 社会人A O | 2 | 0 | 4 | 4 | 0 | 4 | 4 | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 |
| | | 計 | 110 | 202 | 377 | 579 | 156 | 278 | 434 | 35 | 97 | 132 | 31 | 86 | 117 |
| | 合計 | | 910 | 2,741 | 1,571 | 4,312 | 2,009 | 1,141 | 3,150 | 666 | 415 | 1,081 | 569 | 364 | 933 |

- (注)・前期：前期日程，後期：後期日程，推薦：推薦入試，帰国：帰国子女特別入試，社会人：社会人特別入試，A0：A0入試を示します。
- ・センター試験の受験科目不足による無資格者は、欠席者数に含まれます。
 - ・教育学部前期は2つの課程について第2志望まで志願できる選抜にしており、志願者数及び受験者数は第1志望の人数です。
 - ・システム工学部前期は5学科について第3志望まで志願できる選抜にしており、志願者数及び受験者数は第1志望の人数です。
 - ・観光学部A0は3次選考までであり、1次は書類選考のみのため、受験者数は2次選考受験者の人数です。

平成25年度選抜状況

| 学部 | 学科・課程 | 日程等 | 募集人員 | 志願者 | | | 受験者 | | | 合格者 | | | 入学者 | | |
|----------|-----------------------------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|
| | | | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 教育学部 | 学校教育教員養成課程 | 前期 | 96 | 240 | 132 | 372 | 229 | 125 | 354 | 64 | 37 | 101 | 60 | 35 | 95 |
| | | 後期 | 34 | 172 | 128 | 300 | 69 | 45 | 114 | 22 | 20 | 42 | 20 | 16 | 36 |
| | | 推薦 | 15 | 12 | 36 | 48 | 11 | 36 | 47 | 2 | 13 | 15 | 2 | 13 | 15 |
| | | 計 | 145 | 424 | 296 | 720 | 309 | 206 | 515 | 88 | 70 | 158 | 82 | 64 | 146 |
| 学部 | 総合教育課程 | 前期 | 22 | 46 | 43 | 89 | 43 | 39 | 82 | 13 | 11 | 24 | 11 | 8 | 19 |
| | | 後期 | 10 | 79 | 54 | 133 | 34 | 23 | 57 | 12 | 8 | 20 | 10 | 5 | 15 |
| | | 推薦 | 8 | 16 | 16 | 32 | 16 | 16 | 32 | 4 | 4 | 8 | 4 | 4 | 8 |
| | | 計 | 40 | 141 | 113 | 254 | 93 | 78 | 171 | 29 | 23 | 52 | 25 | 17 | 42 |
| 教育学部計 | | | 185 | 565 | 409 | 974 | 402 | 284 | 686 | 117 | 93 | 210 | 107 | 81 | 188 |
| 経済学部 | 経済学 ビジネスマネジメント学 市場環境学 | 前期 | 200 | 488 | 215 | 703 | 449 | 198 | 647 | 163 | 77 | 240 | 125 | 62 | 187 |
| | | 後期 | 80 | 634 | 348 | 982 | 381 | 206 | 587 | 73 | 54 | 127 | 63 | 44 | 107 |
| | | 推薦 | 40 | 59 | 39 | 98 | 59 | 39 | 98 | 22 | 19 | 41 | 22 | 19 | 41 |
| | | スポーツ | 4 | 5 | 1 | 6 | 5 | 1 | 6 | 3 | 1 | 4 | 3 | 1 | 4 |
| | | 帰国 | 3 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| | | 社会人 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 経済学部計 | | | 330 | 1,188 | 604 | 1,792 | 896 | 445 | 1,341 | 263 | 151 | 414 | 214 | 126 | 340 |
| システム工学部 | 情報通信システム学科 | 前期 | 30 | 115 | 8 | 123 | 102 | 7 | 109 | 32 | 3 | 35 | 31 | 3 | 34 |
| | | 後期 | 20 | 129 | 14 | 143 | 81 | 6 | 87 | 24 | 2 | 26 | 18 | 2 | 20 |
| | | 推薦 | 7 | 22 | 4 | 26 | 20 | 4 | 24 | 6 | 1 | 7 | 6 | 1 | 7 |
| | | 計 | 57 | 266 | 26 | 292 | 203 | 17 | 220 | 62 | 6 | 68 | 55 | 6 | 61 |
| システム工学部 | 光メカトロニクス学科 | 前期 | 30 | 92 | 4 | 96 | 85 | 4 | 89 | 33 | 1 | 34 | 30 | 1 | 31 |
| | | 後期 | 20 | 97 | 8 | 105 | 47 | 6 | 53 | 24 | 3 | 27 | 23 | 3 | 26 |
| | | 推薦 | 7 | 25 | 0 | 25 | 25 | 0 | 25 | 7 | 0 | 7 | 7 | 0 | 7 |
| | | 計 | 57 | 214 | 12 | 226 | 157 | 10 | 167 | 64 | 4 | 68 | 60 | 4 | 64 |
| システム工学部 | 精密物質学科 | 前期 | 30 | 88 | 28 | 116 | 85 | 26 | 111 | 31 | 9 | 40 | 26 | 7 | 33 |
| | | 後期 | 20 | 79 | 28 | 107 | 39 | 15 | 54 | 21 | 10 | 31 | 17 | 10 | 27 |
| | | 推薦 | 7 | 7 | 4 | 11 | 7 | 4 | 11 | 2 | 1 | 3 | 2 | 1 | 3 |
| | | 計 | 57 | 174 | 60 | 234 | 131 | 45 | 176 | 54 | 20 | 74 | 45 | 18 | 63 |
| システム工学部 | 環境システム学科 | 前期 | 30 | 76 | 12 | 88 | 68 | 10 | 78 | 28 | 5 | 33 | 23 | 5 | 28 |
| | | 後期 | 20 | 108 | 42 | 150 | 53 | 23 | 76 | 19 | 12 | 31 | 16 | 10 | 26 |
| | | 推薦 | 7 | 22 | 7 | 29 | 21 | 7 | 28 | 7 | 1 | 8 | 7 | 1 | 8 |
| | | 計 | 57 | 206 | 61 | 267 | 142 | 40 | 182 | 54 | 18 | 72 | 46 | 16 | 62 |
| システム工学部 | デザイン情報学科 | 前期 | 30 | 60 | 35 | 95 | 58 | 26 | 84 | 24 | 11 | 35 | 23 | 10 | 33 |
| | | 後期 | 20 | 103 | 60 | 163 | 54 | 28 | 82 | 20 | 5 | 25 | 15 | 5 | 20 |
| | | 推薦 | 7 | 15 | 19 | 34 | 13 | 19 | 32 | 1 | 6 | 7 | 1 | 6 | 7 |
| | | 計 | 57 | 178 | 114 | 292 | 125 | 73 | 198 | 45 | 22 | 67 | 39 | 21 | 60 |
| システム工学部計 | | | 285 | 1,038 | 273 | 1,311 | 758 | 185 | 943 | 279 | 70 | 349 | 245 | 65 | 310 |
| 観光学部 | 観光経営学 地域再生学 | 前期 | 50 | 65 | 99 | 164 | 63 | 94 | 157 | 23 | 37 | 60 | 22 | 33 | 55 |
| | | 後期 | 35 | 85 | 152 | 237 | 40 | 69 | 109 | 20 | 23 | 43 | 17 | 21 | 38 |
| | | 推薦 | 20 | 40 | 106 | 146 | 40 | 106 | 146 | 3 | 21 | 24 | 3 | 21 | 24 |
| | | 社会人 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 観光学部 | A O | 社会人 | 3 | 1 | 13 | 14 | 0 | 10 | 10 | 0 | 4 | 4 | 0 | 4 | 4 |
| | | 計 | 110 | 191 | 370 | 561 | 143 | 279 | 422 | 46 | 85 | 131 | 42 | 79 | 121 |
| 合計 | | | 910 | 2,982 | 1,656 | 4,638 | 2,199 | 1,193 | 3,392 | 705 | 399 | 1,104 | 608 | 351 | 959 |

(注)・前期：前期日程，後期：後期日程，推薦：推薦入試，帰国：帰国子女特別入試，社会人：社会人特別入試，A0：A0入試を示します。
 ・センター試験の受験科目不足による無資格者は、欠席者数に含まれます。
 ・教育学部前期は2つの課程について第2志望まで志願できる選抜にしており，志願者数及び受験者数は第1志望の人数です。
 ・システム工学部前期は5学科について第3志望まで志願できる選抜にしており，志願者数及び受験者数は第1志望の人数です。
 ・観光学部A0は3次選考までであり，1次は書類選考のみのため，受験者数は2次選考受験者の人数です。

平成24年度選抜状況

| 学部 | 学科・課程 | 日程等 | 募集人員 | 志願者 | | | 受験者 | | | 合格者 | | | 入学者 | | |
|----------|-----------------------------|--------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|
| | | | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 教育学部 | 学校教育教員養成課程 | 前期 | 96 | 184 | 138 | 322 | 181 | 129 | 310 | 73 | 40 | 113 | 72 | 39 | 111 |
| | | 後期 | 34 | 213 | 180 | 393 | 84 | 67 | 151 | 22 | 17 | 39 | 21 | 14 | 35 |
| | | 推薦 | 15 | 16 | 30 | 46 | 16 | 30 | 46 | 5 | 10 | 15 | 5 | 10 | 15 |
| | | 計 | 145 | 413 | 348 | 761 | 281 | 226 | 507 | 100 | 67 | 167 | 98 | 63 | 161 |
| 教育学部 | 総合教育課程 | 前期 | 22 | 41 | 37 | 78 | 39 | 34 | 73 | 12 | 12 | 24 | 12 | 10 | 22 |
| | | 後期 | 10 | 28 | 41 | 69 | 14 | 17 | 31 | 5 | 7 | 12 | 5 | 6 | 11 |
| | | 推薦 | 8 | 11 | 15 | 26 | 11 | 15 | 26 | 2 | 6 | 8 | 2 | 6 | 8 |
| | | 計 | 40 | 80 | 93 | 173 | 64 | 66 | 130 | 19 | 25 | 44 | 19 | 22 | 41 |
| 教育学部計 | | | 185 | 493 | 441 | 934 | 345 | 292 | 637 | 119 | 92 | 211 | 117 | 85 | 202 |
| 経済学部 | 経済学 ビジネスマネジメント学 市場環境学 | 前期 | 200 | 450 | 182 | 632 | 424 | 174 | 598 | 165 | 72 | 237 | 138 | 58 | 196 |
| | | 後期 | 80 | 543 | 288 | 831 | 320 | 167 | 487 | 64 | 44 | 108 | 53 | 36 | 89 |
| | | 推薦 | 40 | 42 | 26 | 68 | 42 | 26 | 68 | 24 | 17 | 41 | 24 | 17 | 41 |
| | | スポーツ ソツ推薦 | 4 | 4 | 4 | 8 | 4 | 4 | 8 | 1 | 3 | 4 | 1 | 3 | 4 |
| | | 帰国 社会人 | 3 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 経済学部計 | | | 330 | 1,043 | 502 | 1,545 | 794 | 373 | 1,167 | 258 | 138 | 396 | 220 | 116 | 336 |
| システム工学部 | 情報通信システム学科 | 前期 | 30 | 108 | 7 | 115 | 99 | 7 | 106 | 39 | 3 | 42 | 36 | 3 | 39 |
| | | 後期 | 20 | 172 | 18 | 190 | 95 | 11 | 106 | 18 | 3 | 21 | 13 | 3 | 16 |
| | | 推薦 | 7 | 26 | 2 | 28 | 26 | 2 | 28 | 6 | 0 | 6 | 6 | 0 | 6 |
| | | 計 | 57 | 306 | 27 | 333 | 220 | 20 | 240 | 63 | 6 | 69 | 55 | 6 | 61 |
| システム工学部 | 光メカトロニクス学科 | 前期 | 30 | 109 | 5 | 114 | 100 | 4 | 104 | 33 | 2 | 35 | 33 | 2 | 35 |
| | | 後期 | 20 | 92 | 3 | 95 | 42 | 3 | 45 | 19 | 1 | 20 | 17 | 1 | 18 |
| | | 推薦 | 7 | 18 | 0 | 18 | 18 | 0 | 18 | 9 | 0 | 9 | 9 | 0 | 9 |
| | | 計 | 57 | 219 | 8 | 227 | 160 | 7 | 167 | 61 | 3 | 64 | 59 | 3 | 62 |
| システム工学部 | 精密物質学科 | 前期 | 30 | 54 | 15 | 69 | 52 | 15 | 67 | 33 | 7 | 40 | 30 | 7 | 37 |
| | | 後期 | 20 | 72 | 21 | 93 | 30 | 9 | 39 | 22 | 4 | 26 | 20 | 3 | 23 |
| | | 推薦 | 7 | 3 | 2 | 5 | 3 | 2 | 5 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| | | 計 | 57 | 129 | 38 | 167 | 85 | 26 | 111 | 57 | 11 | 68 | 52 | 10 | 62 |
| システム工学部 | 環境システム学科 | 前期 | 30 | 65 | 13 | 78 | 56 | 9 | 65 | 27 | 8 | 35 | 25 | 7 | 32 |
| | | 後期 | 20 | 104 | 31 | 135 | 51 | 17 | 68 | 18 | 4 | 22 | 13 | 3 | 16 |
| | | 推薦 | 7 | 20 | 8 | 28 | 20 | 7 | 27 | 8 | 1 | 9 | 8 | 1 | 9 |
| | | 計 | 57 | 189 | 52 | 241 | 127 | 33 | 160 | 53 | 13 | 66 | 46 | 11 | 57 |
| システム工学部 | デザイン情報学科 | 前期 | 30 | 60 | 39 | 99 | 54 | 35 | 89 | 20 | 14 | 34 | 19 | 13 | 32 |
| | | 後期 | 20 | 91 | 46 | 137 | 42 | 18 | 60 | 18 | 3 | 21 | 15 | 3 | 18 |
| | | 推薦 | 7 | 15 | 8 | 23 | 14 | 8 | 22 | 6 | 4 | 10 | 6 | 4 | 10 |
| | | 計 | 57 | 166 | 93 | 259 | 110 | 61 | 171 | 44 | 21 | 65 | 40 | 20 | 60 |
| システム工学部計 | | | 285 | 1,009 | 218 | 1,227 | 702 | 147 | 849 | 278 | 54 | 332 | 252 | 50 | 302 |
| 観光学部 | 観光経営学 地域再生学 | 前期 | 50 | 65 | 103 | 168 | 63 | 100 | 163 | 21 | 37 | 58 | 20 | 30 | 50 |
| | | 後期 | 35 | 91 | 156 | 247 | 41 | 76 | 117 | 17 | 24 | 41 | 11 | 21 | 32 |
| | | 推薦 | 20 | 44 | 92 | 136 | 44 | 92 | 136 | 7 | 24 | 31 | 7 | 24 | 31 |
| | | 社会人 A O | 2 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | 0 | 1 | 1 |
| 観光学部計 | | | 110 | 204 | 360 | 564 | 152 | 277 | 429 | 48 | 88 | 136 | 40 | 77 | 117 |
| 合計 | | | 910 | 2,749 | 1,521 | 4,270 | 1,993 | 1,089 | 3,082 | 703 | 372 | 1,075 | 629 | 328 | 957 |

(注)・前期：前期日程，後期：後期日程，推薦：推薦入試，帰国：帰国子女特別入試，社会人：社会人特別入試，A0：A0入試を示します。
 ・教育学部前期は2つの課程について第2志望まで志願できる選抜にしており，志願者数及び受験者数は第1志望の人数です。
 ・システム工学部前期は5学科について第3志望まで志願できる選抜にしており，志願者数及び受験者数は第1志望の人数です。
 ・観光学部A0は4次選考までであり，1次は書類選考のみのため，受験者数は2次選考受験者の人数です。

受 験 上 の 注 意

○共通の注意事項

1. 試験当日は、「和歌山大学受験票」および「平成 27 年度大学入試センター試験受験票」は、必ず持参してください。
2. あらかじめ、試験場の所在地と所要時間を確認しておいてください。
なお、試験当日は北側進入路（システム工学部裏側）からは入構できません。正門（バス停）側進入路から入構してください。
3. 交通事情等を考慮し、余裕をもって試験場に到着するようにしてください。
なお、遠方の受験者にとっては、大雪や風などによって飛行機、船、列車等が通常のとおり運行されない事態も起こり得ますので、あらかじめ気象状況や交通機関の運行状況を把握し、数日前から試験場近郊に滞在するなど適切な対応をお願いします。
4. 試験当日、J R 和歌山駅、南海和歌山市駅及び南海和歌山大学前駅付近や大学周辺で行われることのある合否電報受付等（有料）の勧誘に和歌山大学は一切関与していませんので、ご注意ください。
※合格発表は、合格発表日に、和歌山大学構内掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には合格通知書を送付します。そのほか、和歌山大学ホームページにも合格者の受験番号を掲示します。
詳しくは、31ページを御覧ください。
5. 試験日の前日は試験場内に立ち入ることができません。
6. 試験場内には自動車・バイク等の乗り入れはできません。
7. 付き添い者は、試験場内には立ち入ることはできません。
8. 試験室等の位置は、試験当日に試験場入口に掲示します。
9. **試験開始時刻の 30 分前までに入室してください。監督者による説明が始まります。**
10. 試験室では、机の上の受験番号が受験票の受験番号と同一であることを確認し、着席してください。
11. 遅刻した場合は、試験開始時刻後 30 分以内に限り受験を認めます。
12. 試験開始から試験終了まで退室は認めません。
13. 体調不良やトイレ等、やむを得ない場合は、挙手し、監督者の指示に従ってください。
14. 携帯電話は、試験室に入る前に、電源を切ってください。あわせて、アラームの設定も解除してください。携帯電話を時計の代わりとして利用することを禁止します。
15. 試験（実技検査を除く）時間中、机の上に置けるものは、本学受験票、平成 27 年度大学入試センター試験受験票、鉛筆、万年筆、ボールペン、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り、時計（計時機能のもの）です。
16. 飲み物等は、かばんに入れてください。
17. 所持品、コート類は、各自机の横の床上に整理して置いてください。机の中は利用できません。
18. 寒い場合は、コート類を着用しても差し支えありません。
19. 英文字や地図等がプリントされている上着等の着用は認めない場合があります。
20. 試験中、受験者間での物品の貸し借りを禁止します。
21. 受験する科目は、出願時に届けた科目以外で受験することはできません。
22. 問題冊子や解答用紙に、不備があれば、挙手して監督者に教えてください。
23. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。解答用紙は持ち帰れません。

○前期日程試験に関する注意事項

1. 教育学部の受験者は、受験しない科目の試験時間中に試験室を利用できません。
2. 経済学部「簿記」の受験者は「簿記」の受験に際し、そろばんまたは電子卓上計算機（電池式で記録紙・信号音の出ないもの）の使用を認めます。

○不正行為に関する注意事項

1. 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を命じられ、それ以後の受験はできなくなります。また、受験した個別学力検査のすべての教科・科目の成績を無効とします。

- ア. 願書、受験票・写真票、解答用紙へ故意に虚偽の記入（受験票・写真票に本人以外の写真をはることや解答用紙に本人以外の名前・受験番号を記入するなど。）をすること。
- イ. カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- ウ. 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- エ. 試験時間中に、問題冊子を試験室から持ち出すこと。
- オ. 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- カ. 「解答はじめ。」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- キ. 試験時間中に、使用を認められたもの以外の電子機器類・補助具を使用すること。
- ク. 「解答やめ。筆記用具を置いてください。」の指示に従わず、筆記用具や消しゴムを持っていたり、解答を続けること。

2. 上記1以外にも、次のことをすると不正行為となることがあります。指示等に従わず、不正行為と認定された場合の取り扱いは、上記1と同様です。

- ア. 試験時間中に、使用を認められたもの以外の電子機器類・補助具をかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っていること。
- イ. 試験時間中に携帯電話や時計等の音（着信・アラーム・振動音など）を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
- ウ. 試験に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申し出をすること。
- エ. 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- オ. 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- カ. その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。